

ル收容陣地ヲ以テ満足スル能ハス從ヒテ收容陣地ヲ數地點ニ設ケ此等收容部隊ノ合成ニ依リ其目的ヲ達スルヲ普通トス例ヘハ收容陣地ヲ兩側ニ設ケ又ハ戰線ノ背後ニ於テ數點ニ設ケ退却部隊ヲシテ其中間ヲ濾過セシムル如キ是ナリ然レトモ此等ハ爲シ得ル限り統一セシムルヲ可トス然ラサレハ其退却等各個トナリ齟齬ヲ來スコト少カラサレハナリ又各部隊ノ收容陣地トハ各部隊各自直接ニ第一線ノ收容ヲ計ルモノニシテ所謂戰場收容ナリ其目的ハ最初ノ追撃射撃ニ任スル敵ノ動作ヲ妨害スルニ在ルヲ以テ其位置ヲ散兵線ノ一側後ニ設ルヲ有利トス(歩操一ノ165二ノ76、新歩操一ノ170、二ノ106)

混成旅團ノ退却部署

一、道路ノ開放

輜重ヲ笹子峠以東ニ退却セシム
大行李ヲ藤野木ニ向ヒ退却セシム
飛行場ヲ河口附近ニ移ス

衛生隊及野戰病院ヲ先ツ上黒駒ニ退却セシム

二、收容隊ノ編成及收容陣地ノ占領

右收容隊

步兵第一聯隊第三大隊(一中隊欠)及同機關銃隊(一小隊欠)
野砲兵一中隊
工兵一小隊

鹽部村西端及同地南方鐵道附近占領但步兵一小隊ヲ以テ字湯村附近ノ高地占領砲兵陣地ハ甲府舊城趾内トス

左收容隊

步兵第三聯隊第一大隊
步兵第二聯隊機關隊(一小隊欠) } 上石田附近及下石田附近占領
但右收容隊長ヲシテ左收容隊ヲモ區處セシムルモノトス
三、第一線部隊ノ退却

步兵第一聯隊(收容隊ニ屬スルモノヲ除ク)
野砲兵第一大隊(一中隊欠)及同聯隊段列一小隊 } 步兵第一聯隊長ノ區處ヲ以テ信州往還及其以北ノ地區ヲ經テ甲府東端字板垣附近ニ退却
工兵第一中隊(二小隊欠)
步兵第二聯隊(機關銃二小隊欠) 信州往還之ヲ含マス以南ノ地區ヨリ字蓬澤ニ

工兵一小隊

一向ヒ追却

騎兵中隊ノ主力ハ當面ノ敵ノ前進ヲ遲滯シツツ二日市場(甲府南方約二吉米)ニ爾後甲州街道以北ノ地區ニ在リテ陣地ノ右翼ヲ警戒シ且青梅街道ヲ掩護セシム步兵第二聯隊ハ笛吹川左岸地區ヲ當面ノ敵ヲ遲滯シツツ上曾根村新居ニ退却左翼ノ掩護ニ任セシム

四、旅團長ハ退却實行ヲ認メタル後甲府東端附近ニ先行シ爾後ノ區處ヲ爲スコト左ノ如シ

步兵第一聯隊長ノ區處スル部隊ハ甲州街道及成田ヲ經テ下黒駒北側地區ニ向ヒ退却セシム

但步兵約二中隊ヲ以テ松本北方高地及石和西端附近ヲ占領シ收容隊ノ退却ヲ收容シ且陣地占領ヲ掩護セシム

步兵第二聯隊長ノ指揮スル部隊ハ主トシテ螢見橋及北八代ヲ經テ尾山附近ニ退却セシム

但步兵二中隊ヲ東高橋及東油川附近ニ殘置シ收容隊ヲ收容シ且陣地占領ヲ掩護セシム

五、參謀ヲ先遣シテ旅團防禦ノ目的ヲ以テ陣地偵察ヲ爲ナシム

狀況

午後十二時四十分頃旅團長ハ字下河原ニ在リテ前述ノ如ク退却部署ヲ立案シ之ヲ實施セントス

問題

退却ノ爲ノ旅團命令(宿題)

講評

一、衛生隊及野戰病院ニ參謀ヲシテ命令ヲ下達セシメタル者アルモ此ノ如キハ多ク屋内ニ在ルモノナルヲ以テ寧ロ筆記シタル命令ヲ傳騎ヲシテ送達セシムルヲ可トセン之ニ反シ飛行機中隊ニハ成ルヘク參謀ヲ派遣シテ連絡ヲ取ラシムルノ要アルヲ以テ參謀ヲ派遣スルヲ可トス又參謀ニ命スルニハ其大綱ヲ示セハ可ナリ

一、兩收容隊長ヲ招致シテ合同命令ヲ下シタル者又ハ合同ノ命令ヲ筆記シテ之ヲ
兩收容隊ニ送リタル者アリ共ニ同意スル能ハス尙又兩聯隊長ニ合同ノモノヲ
筆記シテ下スモ亦適當ナラス

一、右收容隊ト歩兵第一聯隊ニハ各別ニ命令ヲ口達シタル者多キモ兩者ノ現在ス
ル位置及指揮系統上ヨリ合同ノモノヲ口達セシムルヲ可トス

一、退却ノ命令ヲ電話ノミニ委セントスルハ適當ナラス陣令(36)ニモ之ヲ戒ム實際
此ノ如キ場合ニ於テハ不通トナリ易シ

一、左收容隊ヲ全ク右收容隊長ノ指揮下ニ入レ陣地占領ヲモ右收容隊長ノ命令ヲ
以テ之ヲ行フ如クスルハ機宜ヲ失スルノ虞アリ故ニ單ニ區處セシムル如クス
ルヲ可トス

一、機關銃隊長ニハ直接命令スルノ必要ナク寧ロ聯隊長ニ命スルヲ可トス

一、命令ニハ友軍ノ件ヲ通知シ且退テ友軍ヲ待ツノ目的ヲ知ラシムルハ志氣上必
要ナリ

一、退却ノ時機ハ豫メ示スヲ可トス然ラサレハ再ヒ傳令ヲ派遣セサルヘカラス然
レトモ其時機ヲ午後二時ト定メタルハ狀況ニ適セス

一、第一線部隊ニハ比隣部隊ノ退却法ヲ通報スルノ必要アルト共ニ收容隊ニハ第

一線部隊ノ退却法ヲ通報スルヲ可トス

一、砲兵中隊ニハ直接命スルヨリハ砲兵大隊長ニ命スルヲ可トス又砲兵隊長ニ冗
長ナル命令ヲ與フルハ適當ト謂ヒ難シ

混成旅團ノ退却命令

(一)衛生隊及野戰病院へ(傳騎ヲシテ筆記シタルモノヲ送達ス)

一、富士川河谷ヲ前進セシ敵ハ既ニ黒澤及猷澤以北ニ達シタルモノノ如シ
友軍ハ三月二日午前甲府平地ニ到着スル筈

二、旅團ハ今ヨリ笛吹川左岸下黒駒附近ニ向ヒ退却シ友軍ノ來著ヲ待タントス

三、衛生隊及野戰病院ハ速ニ傷者ノ處置ヲ終リ成田ヲ經テ上黒駒ニ向ヒ退却スヘ
シ

四、予ハ後刻石和及成田ヲ經テ下黒駒ニ到ル

混成旅團長 少 將 某

(二)左收容隊へ(乙副官ヲシテ口達)

一、前ニ同シ

二、旅團ハ今ヨリ笛吹川左岸下黒駒附近ニ退却シ友軍ノ來著ヲ待タントス
歩兵第一聯隊ハ信州往還及其以北ノ地區ヲ板垣ニ向ヒ又歩兵第二聯隊ハ其以南ノ地區ヲ蓬澤ニ向ヒ退却スル筈

三、歩兵第三聯隊第一大隊及歩兵第二聯隊機關銃隊(一小隊欠)ハ左收容隊トナリ右收容隊ノ左翼ニ連繫シテ直ニ上石田及下石田附近ヲ占領シ旅團ノ退却ヲ收容スヘシ傳騎ニヲ附ス

陣地到着後ハ右收容隊長ノ區處ヲ受クヘシ

歩兵第一聯隊第三大隊長ノ指揮スル歩兵三中隊、機關銃二小隊、野砲兵一中隊及

工兵一小隊ハ右收容隊トナリ鹽部村西端及同地南方鐵道附近ヲ占領スル筈

又我カ騎兵中隊ノ主力ハ先ツ二日市場ニ退却シ同方面ヲ警戒スル筈

四、予ハ後刻石和及成田ヲ經テ下黒駒ニ到ル

混成旅團長 少 將 某

(三)歩兵第一聯隊長(先ツ電話ヲ以テ大要ヲ通シ且甲副官ヲシテ聯隊長及大隊長ニ口達)

一、前ニ同シ

二、旅團ハ今ヨリ笛吹川左岸下黒駒附近ニ退却シ友軍ノ來著ヲ待タントス

三、歩兵第一聯隊第三大隊長ハ部下三中隊、機關銃隊(一小隊欠)、野砲兵一中隊及工兵

一小隊ヲ指揮シ右收容隊トナリ直ニ均部西端及同地南方鐵道附近ヲ占領シ旅

團ノ退却ヲ收容スヘシ傳騎ニヲ附ス

歩兵第三聯隊第一大隊及機關銃二小隊ハ左收容隊トナリ其左翼ニ連繫シテ上

石田及下石田附近ヲ占領スル筈

貴官ハ左收容隊ノ陣地到着後該隊ヲモ區處スヘシ

野砲兵一中隊及工兵小隊ハ後刻荒川橋附近ニ於テ貴官ノ隸下ニ入ル筈

四、歩兵第一聯隊長ハ部下聯隊收容隊ニ屬スルモノヲ除ク、野砲兵大隊(一中隊欠)、同

聯隊段列及工兵第一中隊(二小隊欠)ヲ區處シテ午後一時十分信州往還及其以北

ノ地區ヲ經テ先ツ甲府東端板垣附近ニ向ヒ退却シ後石和及成田ヲ經テ下黒駒

ニ向ヒ退却スヘシ

詳細ニ關シテハ追テ命令ス

歩兵第二聯隊ハ信州往還之ヲ含マス以南ノ地區ヲ先ツ蓬澤ニ退却シ後富士見

村及北八代ヲ經テ退却スル筈

五、予ハ第一線ノ退却ニ伴ヒ現在地出發甲府東端ニ到ル

(四)步兵第二聯隊長へ(乙副官ヲシテ左收容隊ニ傳ヘタル後口達ス但電話ヲ以テ先ツ大要ヲ傳達)

一、前ニ同シ

旅團ハ今ヨリ笛吹川左岸下黒駒附近ニ退却シ友軍ノ來著ヲ待タントス

二、我カ收容隊ハ今ヨリ鹽部西端上石田及下石田ノ線ヲ占領シテ旅團ノ退却ヲ收容スル筈

三、步兵第二聯隊(左收容隊ニ屬スル機關銃隊ヲ除ク)ハ午後一時十分信州往還之ヲ含マス以南ノ地區ヲ先ツ蓬澤ニ向ヒ退却シ後富士見村―北八代―尾山道及其以南ヲ尾山ニ向ヒ退却スヘシ工兵一小隊ヲ屬ス

機關銃隊(一小隊欠)ヲ左收容隊長タル步兵第三聯隊第一大隊長ノ隸下ニ屬スヘシ

爾後ニ關スル詳細ハ追テ命令ス

爾餘ノ諸隊ハ步兵第一聯隊長ノ指揮ヲ以テ信州往還及其以北ノ地區ヲ先ツ板

垣ニ退却シ後石和及成田ヲ經テ退却スル筈

四、予ハ第一線ノ退却ニ伴ヒ現在地出發甲府ヲ經テ甲府東端ニ到ル

(五)砲兵大隊長へ(旅團長自ラ電話ヲ以テ)

一、二、衛生隊ニ與フル命令ニ同シ

三、砲兵大隊ハ野砲兵一中隊ヲシテ即刻出發荒川橋附近ニ於テ右收容隊長某少佐ノ隸下ニ入ラシメ爾餘ハ步兵第一聯隊長ノ區處ヲ以テ甲州街道ヲ退却スヘシ

五、予ハ後刻石和及成田ヲ經テ下黒駒ニ到ル

備考

一、工兵中隊ニハ連絡將校ヲシテ工兵ノ分屬ニ關スルコトヲ命ス

一、騎兵中隊及步兵第八中隊ニハ別ニ筆記シタルモノヲ傳騎ヲシテ送達シ其任務ヲ命ス

三、電話隊ニハ直ニ電話ヲ撤收シ下黒駒ニ到ラシム

夜間退却ノ原則

夜間ノ退却ト晝間退却トノ差異

夜間ノ退却部署

夜間ニ於テハ晝間ト異ナリ彼我ノ射撃ヲ制限シ且敵ノ注意ヲ喚起スルコト少キヲ以テ晝間ニ比シ敵ト離脱スルニ容易ナリト雖其部下ヲ掌握集結スルハ晝間ニ比スレハ著シク困難ニシテ動モスレハ混亂ニ陥ルノ虞アリ是一ハ晝間ニ比シ其志氣上ニ影響スルコト大ナルヲ以テナリ故ニ夜間退却ノ要訣ハ爲シ得ル限リ其動作ヲ秘匿シ敵ヲシテ全ク我カ退却ヲ覺ラシメサルト共ニ其部下ノ掌握集結ニ努力シ以テ混亂ニ陥ラシメサル如ク部署スルニ在リ現ニ露軍ハ彼日露戰役ニ於テ巧妙ニ其退却ヲ秘匿シ吾人ヲ啞然タラシメタルハ屢ナリキ

前述べノ如キヲ以テ其退却ノ部署ニ於テモ自ラ差異ヲ生ス即チ晝間ニ於テハ收容隊ノ射撃ノ掩護ニ依リ敵ト離脱スルモ夜間ニ於テハ之カ必要少ク第一線部隊自身ノ掩護ニ依リ敵ト離脱スルヲ本旨トナス又爲シ得ル限リ敵ニ我々退却動作ヲ秘匿スヘキヲ以テ第一線ノ現狀ハ爲シ得ル限リ變化セサルヲ良策トス之カ爲第一線部隊ハ各部隊ノ展開地區又ハ占領地區毎ニ若干部隊ヲ殘置シ他ハ靜肅ニ同時ニ退却ニ就クカ又ハ狀況ニ依リ第一線ヲ逐次ニ退却セシムルニ在リ我カ新歩操(二ノ)109ニ於テモ此殘置部隊ニ關シテ新ニ加ヘラレタリ是前段ノ場合トス而

シテ此廣正面ニ殘置セラレタル部隊ハ一指揮官ノ下ニ統一セラルルコト不可能ナリ故ニ此等ノ部隊相互ニ連繫シテ動作セサルヘカラス加之第一線部隊ヲシテ小夜襲ヲ行ヒ敵ヲ欺瞞スルコトアリ(歩操二ノ)81、新歩操二ノ)108)又既ニ述ヘタル如ク指揮官ノ手裡ニ掌握スルコト必要ナルヲ以テ第一線ハ各部隊毎ニ集結シタル後漸次後方ノ位置ニ集結セラルルモノトス從ヒテ此集結ニハ晝間ニ比シ時間ヲ要スルモノトス而シテ其集結地モ敵火ノ顧慮ナキヲ以テ晝間ニ比シ近キヲ通常トス但過度ニ近キハ敵ニ察知セラレ易クシテ混雜ノ基ナリ又爲シ得ル限リ地形ニ依リ掩護セラルルヲ可トス例ヘハ本狀況ニ於テ夜間ノ退却トセハ敵火ノ顧慮ナキヲ以テ勿論距離上ニ於テハ甲府市西方地區ニ集結シ得ヘシト雖長時間ヲ要スル此夜間ノ集結ハ甲府市街東側ニ於テ行フヲ安全トナスカ如シ今晝夜ノ退却部署ノ差異ヲ圖示セハ左ノ如シ



晝間 隊部却退

夜間

第一線殘置

夜間ノ收容陣地ニ就キテ

右ニ述ヘタル如キヲ以テ夜間收容陣地ノ要否ニ就キテハ從來議論アリ即チ第一線ト敵トノ離脱ハ多クハ火力ニ依ルニアラサルヲ以テ必要ナキノミナラス反テ退却部隊ト收容部隊ト不慮ノ衝突ヲ惹起スル虞アリ故ニ之ヲ設クルヲ絶対ニ不可トスル者アリ然レトモ夜間ト雖明暗ノ度ニ依リ之ヲ設クルヲ利トスル場合アルノミナラス其他狀況、地形ニ依リ之ヲ設クルヲ有利トスル場合ナキニアラス例ヘハ敵情我カ退却ヲ察知セラルル虞アリ而モ地形之ニ適スル場合ノ如キナリ元來收容隊ナルモノハ單ニ敵トノ離脱ヲ圖ルノミニアラスシテ操典ニモ述フル如ク退却スル軍隊ヲ此掩護ノ下ニ集合シ且出發シ得シムルニ在リ(歩操二ノ⁷⁸及新歩操二ノ¹⁰⁵)故ニ集合、出發ニ時間ヲ要スル夜間ノ退却ニ在リテハ大ニ顧慮ヲ要ス殊ニ收容隊ヲ設クルハ其志氣上ニモ大ニ効驗アルニ於テオヤ本狀況ニ於テ之ヲ夜間退却ト假定セハ甲府市ノ西端各通路附近ノ堤防ニ若干ノ收容部隊ヲ豫メ配置スルニ在リ然ルトキハ縦ヒ敵ヨリ過早ニ我カ退却ヲ察知セラレタル場合ニ於テモ安全ニ退却ヲ爲スヲ得ン殊ニ近時ニ於テハ夜間ニ於テ戰場ヲ離脱セシムルノ

場合ヲ増加シ大兵團ト雖夜間ノ追撃敢行ヲ主張スル際ニ於テオヤ故ニ夜間收容隊ヲ設クルヤ否ヤハ一ニ狀況ニ依ルモノニシテ我カ新歩操(二ノ¹⁰⁹)ニモ新ニ之ヲ加ヘ要スレハ收容部隊ヲ設クルコトアルヲ示スニ至レリ現ニ彼日露役遼陽會戰中八月三十日近衛師團右翼隊ノ早飯屯南方ニ於テハ地形不利ノ結果一時退却スルニ方リテモ其豫備タル近衛歩兵第四聯隊第十、第十二ノ二中隊ヲ徐家講南方高地ニ陣地ヲ占領シテ收容ニ任セシメタリ而シテ此等ノ收容隊ハ歩兵及機關銃ヲ以テ編成スルモノトス

退却ノ時機

夜間退却ノ時機ハ全ク狀況ニ依ルモノニシテ夜間退却ヨリ生スル不利ヲ避ケ爾後ノ行動ヲ便ニセンカ爲拂曉前ニ於テ行フヲ可トスルモ亦敵兵夜襲ノ虞アリ爲ニ此ノ如キ動作ヲ許ササル場合ニ於テハ日沒後戰場未タ沈靜ニ赴カサル場合ニ於テ行フヲ可トス然レトモ其準備ハ晝間ニ於テ爲シ得ル限り之ヲ整ヘ其實施ヲシテ澁滞ナカラシムルコト緊要ニシテ新歩操(二ノ¹⁰⁹)ニハ特ニ此件ニ關シ記述セルヲ見ル

防禦戰鬪ノ研究

狀況

旅團長ハ退却ニ關スル命令下達ト同時ニ參謀ヲ下黑駒附近ニ派遣シ陣地偵察ヲ爲サシム但後方ノ區處ヲモ同參謀ニ爲サシムルモノトス

問題

下、黑駒附近陣地判斷要圖但前進陣地ヲモ含ミ單簡ナル理由ヲ附記スルヲ要ス(二萬分一)

講評

一、地形判斷ハ某目的ニ基キ之ニ關スル範圍ノ地形ニ就キテ利害得失ヲ研究シ其採否利用法ヲ決定スルヲ謂フ故ニ防禦ニ於テハ前回ニ於テ研究シタルカ如ク其防禦線ヲ決定シ其處置トシテ兵力配備ノ大要ヲ掲クルニ在リ之ニ反シ陣地

ノ判斷ハ地形判斷ノ一種ナルモ已ニ採用セル陣地ニ就キ其利害得失ヲ研究シ以テ軍隊ノ配備ヲ決定スルヲ謂フ勿論其採用スヘキ陣地線ヲ確實ニ決定シアラサル本問題ノ如キ場合ニ於テハ之ヲモ決定スヘキモノナルモ其軍隊配備ヲ主眼トセサルヘカラス故ニ要圖ニハ兵力配備ヲ一見明瞭ナル如クスルニ在リ然ルニ之ニ適サセル者アリ又其判決モ地形判斷ト何等異ナラサル者多シ同意シ難シ此判斷ハ其決定シタル線ノ如何ナル防禦ニ適スルヤヲ判決シ是ニ依リテ軍隊ノ配備ヲ決定セサルヘカラスナルリ

敵ノ主攻撃方面ノ研究ハ此際重要ナルモノナリ此主攻撃方面ヲ我カ右翼トナシタル者又中央トナシタル者及左翼トナシタル者ノ三種アリ前者ハ恐ラク攻撃容易ナル點ヨリ出テタルモノナラン然レトモ戰畧關係ニモ亦想到セサルヘカラサルヲ以テ此際後者ヲ主トセサルヘカラス從ヒテ左翼方面ノ兵力ヲ大ニスルニ在リ又主攻撃方向ト判斷シタル地區ニハ兵力ヲ大ニスルヲ必要トスルニ首尾一貫セサル者アリ同意シ難シ

一、此際兩翼ヲ堅固ナラシメンカ爲兩翼殊ニ右翼ヲ後退シタル者少カラス一見可ナルカ如キモ元來敵ハ某期間其砲兵優勢ナリ此ノ如キ敵ニ對シ單一ノ陣地ニ

於テ持久スルノ困難ナルハ歐洲戰ノ經驗ニ因リ明ナリ故ニ寧ロ縱深ニ配備シテ持久スルヲ要ス此ノ如クセハ中央薄弱ナラヌシテ而モ將來ノ攻勢移轉ニ容易ナリ

一、敵砲兵優勢ニシテ而モ地形ハ隘路口ニ砲火ヲ集中シ得ルナリ故ニ我カ砲兵モ之ニ注意シ此不利ヲ被ラサルト共ニ我カ陣地ヲ側防セサルヘカラス然ルニ之ニ著意セスシテ敵ノ集中火ヲ被ル如キモノ又ハ敵ノ側射ヲ受クル如キモノ又ハ兩翼ノ據點ヲ側防シ得サル如キモノアリ同意スル能ハス

一、柏尾附近ノ部隊ニ砲兵ヲ分屬スルハ我カ本陣地ノ砲兵ヲ益劣勢ナラシムル嫌アルヲ以テ同意スル能ハス又其歩兵ノ兵力ハ二中隊乃至一大隊ヲ可トセン但建制上ト應援困難ナルトニ因リ予ハ寧ロ一大隊案ヲ採ラントス

一、此防禦地區ヲ單ニ交通上ヨリ三地區ニ分割シタル者アルモ尙兩聯隊長ノ指揮ノ關係ト又地形上旅團豫備ヲ以テ應援スルノ困難ナルトニ鑑ミ寧ロ二地區ニ區分トスルヲ可トス

一、陣地ハ攻勢ニ便ナル爲據點式ナラサルヘカラスコトハ吾人ノ知ル所ナリ然ルニ此兩據點ノ中間ニ配兵シ又ハ配備上容易ナラサル所ヨリ出撃セントスル

ハ適當ナラス又此際遺憾トスルハ殆ト全部攻勢方向ノナキコト是ナリ

一、豫備隊ノ兵力ハ將來ノ攻勢移轉ノ爲地形之ヲ許セハ成ルヘク大ナルヲ可トス然レトモ此豫備隊ヲ以テ兩翼ニ増加スルコト地形上困難ナルヲ以テ最初ヨリ相當ノ兵力ヲ第一線ニモ用キサルヘカラス

二、前進陣地ニ砲兵ノ大ナルモノヲ配屬スルハ元來有利ナルモ此ノ如ク晝間殆ト蔭蔽退却ノ困難ナル如キ地形ニ於テハ考物ナリ中ニハ明拂曉退却セシメントスル如キ案アルモ斯テハ目下既ニ日没ニ近キト天候ノ關係ト依リ效果ナカラシム

一、又此前進陣地ニ砲兵一中隊ヲ附スルトセハ之ヲ分置シ以テ多數ノ砲兵ノ如ク裝ヒ且其退却ニモ容易ナル如クスルヲ可トス

下黒駒附近陣地判斷

判 決

混成旅團
防禦ノ陣地
爲圖

御代咲村附近ヨリ下黒駒附近ヲ經テ大野寺村東方高地ニ互ル陣地ハ持久的攻勢防禦ニ適ス但兩翼ノ據點ハ縱深ニ配備スルヲ要ス

理由

此陣地ノ兩翼ハ稍堅固ナル御代咲村附近ノ高地及大野寺東方ノ高地ニ托スト雖未タ十分堅固ト謂フ能ハス又之カ爲兩翼ヲ後退スルトキハ旅團將來ノ攻勢ニ不利ニシテ又優勢ナル砲兵ヲ有スル敵ニ對シテ決シテ有利ナラス然レトモ若之ヲ數線的ニ縱深ニ設備セハ著シク堅固トナリ縱ヒ敵ノ優勢ナル砲撃ニ對シテモ永ク抵抗シ得ヘシ且其兩外翼モ亦包圍セララルノ憂少シ尙此中間ニハ字市ノ藏及下黒駒村ノ部落アリテ中間ノ有利ナル據點ヲ成形シ而モ此據點間ヨリ有利ニ攻勢ニ轉スルコトヲ得ルヲ以テ火力ヲ以テ比較的永ク敵ヲ拒止シ得ルノミナラス要スレハ攻勢ニ轉スルヲ得從ヒテ旅團現下ノ目的ニ適スルモノト謂フヘシ唯此陣地ハ兩翼據點ニ對スル交通不便ナルヲ以テ最初ヨリ相等ノ兵力ヲ之ニ配備スルヲ要シ且其砲兵ヲ以テ其前地ヲ側防スルコト必要ナリ又敵ノ主攻撃方面ハ其

退路ト我カ友軍ノ進出ニ對スル顧慮上鎌倉街道以南ノ地區タルヘキヲ以テ同方面ニハ比較的其兵力ヲ有力ナラシムルヲ要ス又前進陣地タル英村附近ハ敵ヲシテ其本陣地タルヲ誤認セシムル如ク砲兵ヲ有スル歩兵一、二大隊ヲ以テ字坪井ヨリ成田ヲ經テ字八千藏南方小山城趾ニ互ル線ヲ占領シテ敵ノ攻撃ヲ遲滯シ且適時退却シテ本陣地内ニ入ルニ容易ナル如クスルコト緊要ナリ

處置

- 一、歩兵第三聯隊第一大隊歩兵第二聯隊ノ機關銃一小隊ヲ屬スヲシテ柏尾附近ヲ堅固ニ占領セシム
- 二、歩兵第一聯隊ノ一大隊ヲシテ坪井及成田附近ヲ廣正面ニ互リ占領セシメ敵ノ壓迫ヲ受クレハ上黒駒ニ退却シ豫備タラシム
- 三、歩兵第二聯隊ノ二中隊ヲ以テ二ノ宮及小山城趾ヲ廣正面ニ占領セシメ敵ノ壓迫ヲ受クレハ字八反田方向ニ退却シ歩兵第二聯隊ニ復歸セシム但右翼大隊長ノ區處ヲ受ケシムルモノトス
- 四、野砲兵一中隊ヲシテ一小隊ヲ成田東側本街道附近ニ一小隊ヲ字八千藏東側附近ニ陣地ヲ占領シテ敵ノ前進ヲ遲滯シ敵ノ壓迫ヲ受クレハ上黒駒ニ退却セシ

- ム但前進部隊長タル歩兵第一聯隊大隊長ノ區處ヲ受ケシム
- 五、歩兵第一聯隊(一大隊半欠ヲシテ御代咲村附近ヨリ宇市ノ藏ニ互リ陣地ヲ占領セシム)
- 工事間工兵一小隊及旅團豫備タルヘキ同聯隊ノ二中隊ヲモ其使用ニ供セシム但御代咲村字上塚及字狐新居附近ニハ縱深ニ數線のノ防禦工事ヲ行ヒ堅固ナラシム
- 六、歩兵第二聯隊(機關銃一小隊欠ヲシテ下黒駒村ヨリ大野寺東方高地ニ至ル間ヲ占領セシム)
- 工事間工兵一小隊ヲ附屬ス
- 大野寺東方高地ハ數線ノ工事ヲ爲シ堅固ナラシム
- 七、砲兵一中隊ヲシテ字金澤南側附近ニ陣地ヲ占領シ本街道以南陣地前ヲ射擊スル如クセシム
- 砲兵一中隊ヲシテ上黒駒西方附近ニ陣地ヲ占領シテ本街道以東陣地前ヲ射擊スル如クセシム
- 同一中隊(前進陣地ヨリ退却シタルモノ)ハ上黒駒附近ニ於テ字土塚附近ヨリ字

- 尾山附近ニ至ル間ヲ射擊スル如ク陣地ヲ占領セシム
- 陣地設備中工兵一小隊ヲ附屬ス
- 砲兵聯隊段列ヲ上黒駒中部ニ位置セシム
- 八、歩兵第一聯隊ノ一大隊半及工兵第一中隊ヲ豫備トナシ上黒駒附近ニ位置セシム
- 九、電話隊ヲシテ上黒駒ト第一線兩聯隊長、前進陣地、砲兵隊長、飛行場トヲ連絡シ且爲シ得レハ甲府街道方面ノ守備隊トモ連絡セシム
- 十、衛生隊ハ上黒駒附近ニ野戰病院ハ新宿附近ニ開設セシム
- 十一、旅團長ハ上黒駒ニ位置ス
- 但將校ノ展望哨ヲ南方高地上ニ設置ス

防禦ノ原則

目的ニ依ル防禦ノ種類

一、目的ニ依ル防禦ノ種類

元來防禦ハ地形ノ利用ニ依リ兵力ノ均衡ヲ得ントスルモノニシテ今日ノ如キ火器ノ進歩ニ依リ益、防禦ノ鞏強ナルハ既ニ最近戰役ニ於テ經驗シタル所ナリ而シテ此防禦ヲ其目的ニ依リ持久防禦及攻勢防禦ノ二種ニ分ツハ諸官ノ熟知セル

所ニシテ前者ハ單ニ時間ノ餘裕ヲ得ントスルカ或ハ全ク決戦ヲ避ケントスルカ又ハ一時決戦ヲ避ケントスルヨリ生スルモノニシテ其最終ノ結ハ退却スルカ又ハ全力ヲ盡シテ其陣地ヲ固守スルモノトス而シテ此後者ヲ專守防禦ト謂フ攻勢防禦ハ之ニ反シ決戦ヲ企圖スルモノナリ(歩操二ノ55)決戦ヲ行ヒ敵ヲ擊破セントスルモノハ狀況已ムヲ得サルトキノ外ハ攻撃ニ依リ之ヲ求ムヘキハ古來不變ノ原則ナリ然ルニ尙防勢ニ立タントスルモノハ敵兵優勢ニシテ勝算ナキカ又ハ優勢ト感シタル爲已ムヲ得サルニ出ツルモノニシテ地形ノ選擇ニ依リ其劣勢ヲ回復シ以テ攻勢ニ轉スルニ在リ蓋シ單ニ防支ノミヲ以テハ決シテ徹底的ニ決戦ヲ惹起スル能ハサレハナリ從ヒテ又之ヲ決戦防禦トモ謂フ

攻勢防禦ノ方式

二、攻勢防禦ノ方式

攻勢防禦ノ方式ハ其部署法ニ依リ左ノ三種ニ區別スルコトヲ得

(イ)準備陣の防禦配備

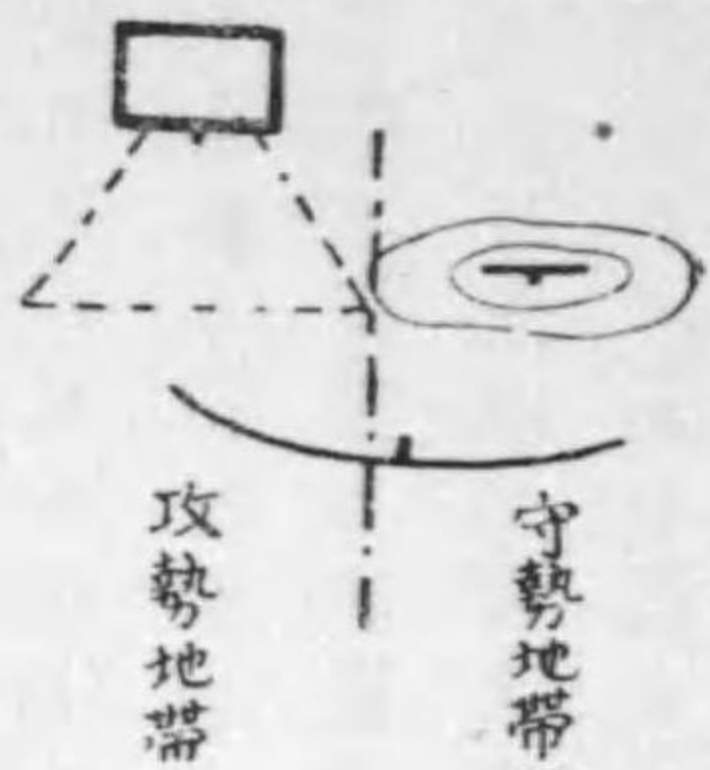
所謂迎撃トモ稱スヘキモノニシテ我ハ地形ヲ利用シテ適當ナル地點ニ其兵力ヲ集結シ諸準備ヲ完了シ敵ノ近接ヲ待テ敵ニ先タチ展開シ敵ノ展開ヲ未タ完了セサルニ乘シ攻勢ニ轉スルカ又ハ敵ノ分進ニ際シ迅速ニ敵ノ某部ニ向ヒ突進シ之

ヲ各個ニ擊破セントスルモノニシテ防者ノ兵力敵ト大差ナク地形ヲ利用シテ其勝利ヲ一層確實ナラシメントスルトキニ用ユルモノトス故ニ遭遇戦ノ一種ト看做スコトヲ得

河川ヲ利用スル決戦防禦及隘路後方ノ決戦防禦ハ此種ニ屬スルモノニシテ普通ノ場合ニ於テハ地形極メテ我ニ有利ニシテ彼我兵力ノ懸隔大ナラサルトキニアラサレハ多クハ奏効期シ難キモノトス

(ロ)斷然タル攻勢防禦

敵情特ニ地形ヲ判斷ンテ攻勢地帯ト守勢地帯トニ區別シ守勢地帯ニ於テ一時有利ニ敵ヲ支持シテ防禦ノ利益ヲ收メ攻勢地帯ヨリ主力ヲ提ケテ攻勢ニ轉スルニ便ナル如ク配備シ敵ノ攻撃方向如何ニ論ナク好機ニ投シ此攻勢地帯ヨリ出撃スルモノニシテ主トシテ彼我兵力ノ比較上勝利ヲ確信シ斷乎タル決心ヲ以テ決戦ヲ企圖シ得ル場合ハ此種ノ配備ヲ採ルヲ有利トス是ヲ以テ地形ノ巧ナル利用ト工事ノ施設トニ依リ爲シ得ル限り防支正面ニ於ケル兵力ヲ節約シ成ルヘク強大ナル豫備隊ヲ得テ之ヲ攻勢ニ用ヒ得ル如クシ而モ此位置ハ攻者ノ外翼又ハ側面ヲ包圍スルニ便ナル如ク之ヲ陣地ノ翼側後ニ選フヲ以テ理想トナス(歩操二ノ66、



新步操二ノ86(即チ上圖ノ如シ然レトモ其主力ヲ總豫備トシテ控置シ得ルハ地形特ニ有利ニシテ且彼我ノ兵力ノ懸隔著シク大ナラサルトキニ限ルモノトス是若攻者ニシテ守者ヨリ著シク大ナル兵力ヲ有スルトキハ攻者ハ防者ノ攻守兩勢地帯共ニ優勢ナル兵力ヲ以テ攻撃シ得ルカ故ニ防者ハ自然地形ノ利用ニ重キヲ置キ從ヒテ第一線ニ比較的の多クノ兵力ヲ當テサルヘカラサルヲ以テナリ

(ハ)普通ノ攻勢防禦持久的攻勢防禦
 地形ノ關係上前述ノ防禦ヲ許ササルトキ又ハ攻防兩者ノ兵力ノ懸隔大ナルニ從ヒ前述ノ如キ配備ヲ採ル能ハサルニ至ルモノトス是此ノ如キ場合ニ於テハ防者ハ此際地形ノ利用ニ依リ射撃ノ威力ヲ發揚シ此兵力ノ大ナル懸隔ヲ回復セサルヘカラサルヲ以テ此趣旨ニ從ヒ防禦ノ配備ヲ爲ササルヘカラサレハナリ即チ防禦ノ全正面ニ互リ高地、村落、森林等ヲ利用スルニ在リ(步二ノ56、71、新步操二ノ61、76)此場合ニ於テハ第一線ノ兵力ヲ比較的強大ナラシムルヲ以テ自然豫備ノ兵力ヲ減スルニ至ヘシト雖其企圖スル攻勢正面ニハ最初ヨリ第一線ノ兵力ヲ強大ナラ

シムルノミナラス(步操二ノ58新步操二ノ78)又此方面ニ爲シ得ル限り多クノ總豫備隊ヲ使用シ得ル如ク配備セサルヘカラス而シテ此ノ如キハ防禦ハ前者ト異ナリ守兵ノ射撃ニ依リ敵ノ攻撃頓挫シタルトキニ於テ始メテ攻勢ニ轉スルニ在ルヲ以テ比較的持久ノ目的ニ適スルモノトス故ニ狀況上一時決戰ヲ避ケ後機ヲ見テ攻勢ニ轉スル如キ場合ニモ適用スルモノニシテ斷然タル攻撃防禦ニ對シテ持久的攻勢防禦ト謂フヲ得ヘシ本狀況ニ於ケル如ク一時持久戰ヲ爲スト雖友軍ノ來著ヲ待テ攻勢ニ轉セントスルカ又ハ其以前ニ於テモ狀況之ヲ要スル場合ニ尙攻勢ヲ採ラントスルノ場合ニ於テハ特ニ適合スルモノト謂フヘシ

三、持久防禦及專手防禦
 持久防禦ニ在リテハ目的、時間及地形ニ依リ其部署法ニ差異アリト雖(步操二ノ90新步操二ノ110)既ニ述ヘタル如ク決戰ヲ避ケ時間ノ餘裕ヲ得ルニ在ルヲ以テ若其時間比較的永キトキハ第一線ノ兵力ヲ強大ニシ射撃ニ依リ敵ヲ遠距離ニ拒止シテ近接セシメス其豫備隊ハ各方面ノ戰況ニ應シ之ヲ増加シ以テ戰鬥ヲ持續スルニ在リ故ニ豫備隊ノ兵力モ亦從ヒテ減少シ且多クハ中央後ニ位置スルモノトス而シテ其陣地ハ我カ有效射程内ニ通過困難ナル障礙ヲ有シ特ニ其兩翼ハ通過ス

ヘカラサル土地若ハ堅固ナル支撐點ニ托シ容易ニ敵ヲシテ迂回セシメサル如キモノヲ選フヲ可トス是此防禦ハ決戦ヲ必要トセサレハナリ斯クシテ其極終ニ專守防禦ニ至ルモノトス而シテ此防禦ハ地形ヲ利用スルハ勿論諸種ノ障碍物ヲ設置シ四方ニ對シ工事ヲ施シ全力ヲ盡シテ之ヲ死守スルモノナルモ苟モ逆襲ノ好機ヲ得ハ斷然之ヲ決行スヘキモノトス(新歩操二ノ94)此ノ如キハ一見決戦防禦ヲ爲スノ觀ヲ呈スルモ元來是其最初ヨリ攻勢移轉ヲ本旨トシタルモノニアラス唯逆襲ニ依リ其目的ヲ達セントスルニ外ナラス

因ニ我カ操典ニ於ケル持久戰ハ全ク其一時的ノモノノミヲ意味スルモノニシテ新歩操(二ノ110)ニ於テハ誤解ヲ避ク爲特ニ「一時敵ヲ支持シナル文句ヲ増補セラレタルニ注意スルヲ要ス

前進陣地ニ就キテ

四、前進陣地ニ就キテ

從來獨國ニ於テハ前進部隊ノ敗退ヲ招キ同時ニ本陣地ノ射撃ヲ妨害スルノミナラス前進部隊ノ退却ニ方リ守者ノ志氣上ニ影響スルヲ以テ概シテ得策ニアラストナシ之ヲ排斥スルニ反シ佛國ニ於テハ之ヲ賞用セリ我カ國ハ獨人ニ等シキ見解ヲ以テ之ヲ排斥シタリト雖野築¹¹吾人ハ日露戰役ノ實驗ニ依リ前進陣地ハ却

テ屢、有利ニ使用セラルヘキコトヲ知レリ即チ我カ軍ハ露軍ノ此種ノ陣地ニ依リ屢、軍ノ前進ヲ遲滯セラレタリ又遼陽會戰ノ直後ニ於ケル我カ第四、第二軍及沙河會戰前ノ我カ軍ハ各師團ノ正面前大凡三里内外ニ各前進支隊ヲ配置シ之ニ依リ十月初メ已ニ敵ノ行動活氣ヲ帶ヒ來ルヲ知レリ加之最近歐洲戰ニ於テモ益、其効益ヲ認メ持久ノ目的ヲ有スル防禦ニ於テハ有利ナル場合多キヲ認ムルニ至レリ要スルニ利害ヲ深く講究シ其害ヲ避ケ其利益ヲ收ムル如ク之ヲ巧ニ利用スヘキモノナリト信ス今其利害ヲ列舉スレハ左ノ如シ

利

- 一、永ク我カ本陣地ヲ掩蔽ス(航空機ノ發達ハ之ニ多少ノ疑念ヲ挿ムニ至リシト雖夜間ノ行動ニ鑑ミルトキ必スシモ然ラサルナリ)
- 二、敵ノ前進ヲ遲滯シ若ハ過早ニ展開セシム
- 三、搜索ノ據點ニ便ナリ

害

- 一、戰鬪ノ離脱困難ニシテ孤立ニ陥ラシメ之カ爲往々豫期セサル地點ニ於テ本戰ヲ惹起ス
- 二、縱ヒ戰鬪ヲ離脱シ得ルモ敵ニ尾撃セラルルヲ以テ本陣地ノ守兵ノ志氣ニ影響ス

以上ノ如シト雖近來工事ノ效力鞏軟ナルニ依リ夜暗ニ乘シ戰鬪ヲ離脱シ得ルト
火器ノ射程ノ延伸トハ以テ此等ノ不利ヲ醫スルニ足ルモノアリ今其利用スヘキ
場合ヲ擧クレハ左ノ如シ

一、前方ニ比較的廣射界ヲ有シ據點タル地區ヨリ蔭蔽シテ退却シ得ルカ如キトキ
敵ヲシテ本防禦線ヲ誤認セシメ得ル場合

二、一般防禦線前ニ地區、地物アリ之ヲ本防禦線ニ入ルルトキハ凸角ヲ成形スルノ
不利アリテ而モ敵兵之ヲ占領スルトキハ彼ニ大ナル利益ヲ與フルカ如キ場合
ニシテ且其退却ハ本防禦線ヨリ有利ニ收容シ得ルトキ

三、前方ニ前進哨ヲ出シ敵兵之ヲ主力ヲ以テ攻撃セハ我ハ主力ヲ以テ直ニ攻勢ニ
轉セントスル場合(巧妙ニ過クル手段ナリト雖)

本狀況ニ於テ成田ノ如キニ前進陣地ヲ設クルハ敵ヲシテ本防禦線ノ如ク誤認セ
シムルノ利益アリ故ニ旅團現時ノ目的ニ適合スト雖唯其退却ヲ蔭蔽スルコト能
ハス殊ニ此退却部隊ハ之ヲ本陣地ノ中央下黒駒附近ノ漏斗口内ニ收容セサルヘ
カラサルコト是ナリ故ニ本狀況ニ於テ本陣地タルヲ誤認セシメントシテ過度ニ
陣地ノ正面ヲ擴張スルハ戒心スヘキ件ナルト共ニ各部隊ハ比較的廣正面ニ展開

數線陣地
ニ就キテ

シテ其退却ニ便ニシ且其陣地前ニ障礙物ヲ設ケテ敵トノ離脱ヲ容易ナラシムル
ノミナラス尙爲シ得レハ夜暗ヲ待テ退却スル等ノ手段ヲ講スルコト必要ナリ

五、數線陣地ニ就キテ

由來我カ國ハ逐次ノ抵抗ヲ排シ唯一ノ陣地ヲ強固ニスルヲ本旨トセリ野築11、步
操二ノ62獨軍モ亦大ニ之ヲ主張セリ然ルニ曾テ之ヲ主張セル獨軍モ一旦歐洲開
戰トナルヤ從來佛國ノ主張セルカ如ク數線ノ配備ヲ採用スルニ至レリ元來一線
陣地ノ主義トスル所ハ戰鬪ノ勝利ハ巧妙ナル逐次戰ニアラスシテ志氣ノ發揚ト
猛烈ナル決戰動作トニシテ退却ヲ豫期シテ豫メ第二線ヲ構築スルカ如キヲ不適
當トナスニ在リ之ニ反シ數線陣地ノ主張スル所ハ如何ニ一線ヲ強固ニスルモ其
線中ノ其部分ニ於テハ決シテ缺陷ナキ能ハス故ニ此一部ノ缺陷ノ爲ニ全線ノ潰
敗ヲ來ス虞アルノミナラス敵ノ迂回ニ對スルコト困難ナリ故ニ豫メ後方ニ豫備
陣地ヲ設ケ第一線ヲ棄ツルノ已ムヲ得サルニ至リタルトキ更ニ此豫備陣地ニ於
テ迎撃スルカ又ハ鞏軟ノ抵抗ヲ爲サントスルニ在リ共ニ一面ノ真理ヲ有スルモ
ノニシテ徒ラニ其可否ヲ論スルコトハ過早ノ嫌アルモ要スルニ後者ハ持久戰ノ
場合ニ適當スルモノト謂フヘシ歐洲戰ニ於テ獨軍ノ之ヲ採用スルニ至リシ所以

ノモノハ爲シ得ル限り東方戰場ニ強大ナル兵力ヲ轉用セントスル趣旨ノ下ニ西方戰場ニ於テ持久スルニ方リ敵ノ優勢ナル砲兵ニ對シテハ決シテ唯一箇ノ陣地ノミヲ以テ満足スル能ハサリシナリ故ニ優勢ナル砲兵ヲ有スル敵ニ對シ長時間ノ戰鬥ヲ持續スルノ目的ヲ達スルノ手段トシテ之ヲ採用スルハ決シテ不可ナキナリ此等ノ見地ヨリシテ我カ新歩操(二ノ65)ニ於テハ陣地帶ヲ更ニ數線ニ重疊配備スルコトヲ新ニ加フルニ至レルノミナラス其防禦工事モ亦縱深アルモノヲ認メ數多ノ小支撐點ヲ縱深ニ分布シテ一陣地帶トナシ以テ敵砲火ノ效果ヲ減殺シ持久ノ目的ヲ達セントスルニ至レリ新歩操二ノ82(本狀況ニ於テモ混成旅團ハ所謂持久的攻撃防禦ヲ企圖スルモノニシテ適當ノ時機迄戰鬥ヲ持續セサルヘカラス之カ爲旅團ノ陣地ハ前述ノ趣旨ヲ採用シ緊要ナル其兩翼據點ノ如キハ縱深アル工事ヲ設クルヲ可トス蓋シ若然ラスシテ此等據點危急ニ瀕セハ旅團ハ過早ニ攻勢ニ轉スルカ又ハ全ク隘路内ニ壓縮セラルルノ餘儀ナキニ至レハナリ

六據點式ノ編成ニ就キテ
防禦陣地ノ設備ニ於テ連續セル火線トナスコトナク數群ノ據點式トナスハ我カ操典ニ示ス所ニシテ歩操二ノ62、新歩操二ノ32、日露戰役ニ於テ經驗シタル所ナリ

其利害ニ關シ今ヤ諫々スルノ必要ナシ唯其集團工事ノ間隔ヲ如何ニスヘキヤハ若干ノ研究ヲ要ス

元來陣地ニ於ケル支撐點ナルモノハ恰モ木柵ノ支柱ノ如シ此支柱ニシテ堅固ナレハ其木柵全體モ亦堅固トナリ此支柱ニシテ益多數ナレハ其木柵モ亦愈々堅固ナル如ク陣地ノ支撐點堅固ニシテ且多數ナルニ從ヒ陣地モ亦甚々堅固ナリ然レトモ其兵力ト陣地ノ正面幅トノ關係ヨリ自ラ限界ヲ生スルモノトス故ニ此支撐點ノ間隔ハ比隣集團ヨリ小銃及機關銃ヲ以テ有利ニ掃射シ得ル如クスルニ在リ(歩操二ノ62、新歩操二ノ82)勿論地形ト大ナル關係ヲ有スルモ平坦開濶地ニ在リテハ八百乃至千米ヲ通常トナス蓋シ此ノ如クスルトキハ約四五百米ノ有利ナル射擊ヲ以テ雙方ヨリ其間隔ヲ閉塞シ得ルノミナラス又千米以内ノ射程ヲ以テ比隣地區ヲ側防シ得レハナリ然レトモ夜間ハ此ノ如キ距離ニテハ甚々不確實ニシテ小銃若ハ機關銃ノ自然照準距離(三百米)ヲ度トナスヲ可トス故ニ夜間ニ於テハ前述兩支撐點間ニ一若ハ二箇ノ小支撐點ヲ設置スルニ在リ以上ハ單ニ學理上ヨリ述ヘタル所ナルモ支撐點ハ村落、森林等ノ如キ容易ニ堅固ナル支撐點ヲ成形シ得ルモノ(歩操二ノ101、新歩操二ノ123)ヲ利用スルニ在ルヲ以テ大ニ此等ノ位置ニ關スル

ハ勿論ナリトス本狀況ニ於テ字土塚附近及字尾山東南方高地ヲ兩翼ノ據點トナシ市ノ藏及下黒駒村ヲ中間ノ支撐點トナシ又此各支撐點ノ中間ニ小支撐點ヲ設クルニ在リ以上述フル如シト雖歐洲開戦後ニ於テハ砲兵威力ノ進歩ト航空機ノ發達ニ依ル精密射撃ノ可能トハ砲火ノ集中威力ヲ逞ウシ從來ノ如ク小局部ニ明瞭ナル集團的陣地ヲ編成スルトキハ忽チニシテ敵ヨリ發見セラレ其集中砲火ノ爲破壊セラルル虞アリ故ニ集團工事ノ間隔ハ偽工事等ニ依リ連綴シ以テ敵ノ視察ニ對シ工事ノ真相ヲ看破セラレサル如クスルト共ニ敵砲火ヲ分散シ其損害ヲ減少センカ爲工事ヲ疎關シ數多ノ小支撐點ヲ分布スルヲ必要トスルニ至レリ是新歩操二ノ82ニ此等ニ關シ新ニ増補セラレタル所以ナリトス然レトモ其據點式タルノ主義ハ變更スルコトナシ是ヲ以テ旅團ノ陣地ノ如キモ此等ノ趣旨ヲ參酌スルヲ至當トス而シテ其詳細ハ後ニ更ニ之ヲ述フルモ旅團ノ配備ノ概要ハ次ノ如シ

步兵第一聯隊第一聯隊及第三大隊ノ半部欠(字石村南方高地ヨリ市ノ藏南方水流ニ至ル間占領)

步兵第一聯隊第二大隊及機關銃隊(一小隊欠)御代咲村附近ノ高地ヲ數線ニ配備ス

同第三大隊第九中隊及機關銃一小隊 市ノ藏西端附近占領但南方部落ニモ豫備

工事ヲ爲ス

同第十中隊 豫備トシテ廣嚴院附近ニ位置ス

步兵第二聯隊(機關銃一少隊欠) 市ノ藏南方水流ヨリ下黒駒村附近ヲ經テ大野寺村高地ニ至ル間占領

步兵第二聯隊第一大隊及機關銃一小隊 下黒駒村附近ヲ占領ス

同第二大隊(第八中隊欠)及機關銃一小隊 字尾山東方高地ヲ縱深ニ配備ス

同第三大隊(第十二中隊欠)

同第八、第十二中隊 豫備トシテ字八反田東端附近ニ位置ス

七、防禦砲兵ニ就キテ

防禦ニ於ケル砲兵ノ主要ナル任務ハ前進スル敵ニ多大ノ損害ヲ與ヘ尙決戰的勝利ヲ得ントスルトキニ在リテハ砲兵ハ步兵ニ協力シテ敵ヲ殲滅シ又單ニ防支ノミヲ目的トスルトキニ在リテハ步兵ト協力シテ敵ノ攻撃ヲ斷念セシムルニ在リ(砲操二ノ65、新砲操二ノ66)之カ爲豫期スル敵ノ攻撃方向ニ其火力ヲ集中シ最近距離迄攻撃歩兵ヲ射撃シ得ル如ク其陣地ヲ選定スルヲ要ス又攻勢移轉ニ際シテ

ハ最モ有效ニ其地帯ヲ射撃シ得ルヲ要ス(砲操二ノ66、新砲操二ノ70)故ニ本狀況ニ於テハ主トシテ金生村方面及宇末木方面又攻勢移轉ニ際シテハ本街道左右ノ地區ヲ射撃セサルヘカラサルヲ以テ砲兵大隊ヲシテ下黒駒村東南附近ニ陣地ヲ占領セシメハ能ク其目的ヲ達シ得ルカ如シト雖此際敵ノ砲兵優勢ニシテ然モ我カ砲火ヲ之ニ集中スルニ便ナラシムルコトニ著意スルヲ要ス即チ能ク敵ノ優勢ナル砲兵ニ對峙シ得ルノミナラス前述集中ノ目的ヲ達セサルヘカラス之カ爲ニハ寧ロ各砲兵中隊ヲ分散シテ字金澤南側、上黒駒北部三叉路附近及同地西南ノ三ヶ所ニ陣地ヲ占領スルニ在リ然ルトキハ敵ノ集中火ヲ避ケ且敵ノ攻撃執レノ翼ニ向フモ斜射ヲ逞ウシ又敵ノ側射ニ對シ有利ニ對抗シ得ヘク加之其攻勢移轉ニ際シ能ク十字火ヲ施スヲ得ヘシ而シテ此ノ如クスルトキハ我カ步兵線ト砲兵陣地トノ距離ニ關シ從來超過射撃ヲ基礎トシタル標準距離約五百米(砲操二ノ66、步操二ノ60)ニ抵觸スルノ嫌アリシト雖新操典ニ於テハ此等ニ鑑ミ改正セラレタルヲ以テ此ノ如キ顧慮ナキニ至レリ(新砲操二ノ70及新步操二ノ80)蓋シ歩砲兵ノ火力ヲ逞ウスル爲ニハ狀況ニ依リ適宜陣地ヲ後退シ又ハ步兵線ニ出スヲ有利トスル場合アレハ本例ノ如ク殊ニ歐洲戰ニ於テハ多ク其例ヲ見ル是ヲ以テ此標準距離

ハ從來ノ如ク超過射撃ノ原理ニ依ル能ハスシテ歩砲兵同時ニ同一ノ敵火ニ依リ損害ヲ受ケサルノ趣旨ニ基キ平坦地ニ在リテハ約三百米ヲ最小限トナスコトヲ示スノ外ナケレハナリ

狀況

一、旅團長ハ午後一時三十分頃荒川橋附近ニ在リテ旅團退却ノ實行ヲ認メタリ敵ハ此時ニ至ル迄旅團ノ退却ヲ確實ニ認知セサリシモノ、如ク我カ第一線諸隊ハ好況ニ敵ト離脱スルヲ得今ヤ殆ト收容陣地ノ線ニ達シタルモ近ク前方ニハ未タ敵兵現出スルニ至ラス是ニ於テ旅團長ハ甲府東端ニ先行シ步兵第一聯隊長ニ自ラ又步兵第二聯隊長ニハ副官ヲシテ大要左ノ如ク區處ヲ與ヘシメ次テ成田西端ニ急行セリ

步兵第一聯隊ヨリ步兵約二中隊ヲ以テ大藏寺山ヨリ石和西方ニ互ル線ヲ占領シ收容隊ヲ收容シ且旅團ノ陣地占領

ヲ掩護セシムルコト

歩兵第二聯隊ヨリ東高橋及東油川各西端附近ヲ各一中隊ヲ以テ占領シ石和附近ノ部隊及新居附近ニ來ルヘキ第八中隊ト連繫シテ我カ收容隊ヲ收容シ且旅團ノ占領ヲ掩護セシムルコト

旅團ハ一部ヲ以テ柏尾附近ヲ主力ヲ以テ下黒駒西南ニ互リ陣地ヲ占領シ且砲兵ヲ有スル一部隊ヲ以テ成田南北ノ線ニ前進陣地ヲ占領スルノ豫定ナルコト

諸隊ノ命令受領者ヲ即刻成田西端ニ出スヘキコト

二、旅團長ハ午後二時四十分頃成田西端ニ達ス此頃遙カ甲府西端ニ小銃特ニ機關銃聲ヲ聞ク又降雪ハ此頃尙依然タリト雖稍其度ヲ減シタリ

間モナク旅團參謀ハ同地ニ到著シ陣地偵察ノ結果タル陣地

判斷ヲ圖上ニ於テ旅團長ニ報告ス

是ニ於テ旅團長ハ之ヲ是認シ既ニ到著シタル命令受領者ヲ集メテ陣地占領ニ關スル命令ヲ下達セリ
時ニ午後三時トス

問題

陣地占領ノ爲ノ混成旅團命令(宿題)

講評

一、陣地占領命令ハ爲シ得ル限り合同命令ヲ下スヲ有利トス是一般ノ目的ニ適スル如ク統一スルニ便ナレハナリ然ルニ間々此趣旨ニ合セサルヤノ感ナキ能ハサル者アリ例ヘハ前進陣地占領ヲ別ニ下シタル如キ又ハ歩兵第二聯隊ニ重複シテ命シタルカ如キ是ナリ若後方本陣地ニ於テ之ヲ下ストキハ此ノ如ク爲スモ前進陣地ノ線ニ於テ下ストキハ成ルヘク合一スルヲ可トス

一之ニ反シ又無意味ニ合同命令ヲ下スモ適當ナラス例ヘハ柏尾ヲ占領スヘキ歩

兵第三聯隊第一大隊ニ合同命令ヲ下サントスル如キハ無理ナリ宜シク別ニ騎兵ノ主力ト共ニ之ヲ下スヲ可トセン

一、此際旅團長ノ決心ヲ示スニ單ニ拒止セントスルハ專守ノ誤解ニ陥リ易ク又友軍ノ來著ヲ待タントスルハ稍穩當ナラサルノ感アリ故ニ單ニ陣地ヲ占領セントス「トナスカ又ハ陣地ヲ占領シ機ヲ見テ攻勢ニ轉セントス」トナスヲ可トセン

一、陣地占領掩護ノコトハ重複スルノ虞アルモ重要ナルヲ以テ之ヲ掲クルヲ可トス

一、前進陣地ハ先ノ收容陣地ト異ナリ左程切迫モシアラサルノミナラス本陣地ト誤認セシムルニハ指揮官ヲシテ統一セシムルヲ可トス然レトモ之ニ對シ過度ニ詳細ニ命令スルハ考物ナリ是命令ノ威信ト信用トニ關スレハナリ故ニ要スレハ意圖ヲ示スヲ可トス又前進陣地撤退ノ時機ヲ旅團長示サントスル者アリ是現況ヲ目撃セサル高級指揮官トシテハ考物ナリ此ノ如キ意圖アレハ豫メ參謀ヲ前進陣地ニ派遣シ適時其意圖ヲ授ケシムルヲ可トス

一、防禦ニ於テハ戰鬪地境ヲ設クルモノニアラス占領地域ト射撃スヘキ前地トヲ區分スルモノトス然ルニ此前地ノ區分ヲ忘レタル者アリ注意ヲ要ス

一、防禦ニ於テハ工事ヲ統一スルコト最モ必要ナルハ操典ノ示ス所ナリ(步操二ノ61、新步操ノ二81)然ルニ之ニ著意シタル者甚タ少キヲ遺憾トス

一、衛生隊及大行李ニハ戰鬪部隊ニ下ス合同ノ命令中ニ加ヘテ下スヲ可トス是雙方ニ於テ其位置ヲ知リアル必要アレハナリ野戰病院モ亦然リ

一、電話隊ニハ多クハ別ニ命令スルヲ例トシ要スレハ回線圖ヲ附スルヲ可トス又飛行機ニモ此際別ニ命スルヲ至當トス

陣地占領ノ爲ノ混成旅團命令(一般)

混成第一旅團命令

二月廿八日午後三時
於成田西端

一、甲府西方ノ敵ハ我ヲ追擊中ニシテ又富士川河谷ヨリ前進セシ敵ニ關シテハ其後新報ヲ得ス

二、旅團ハ今ヨリ主力ヲ以テ御代咲村附近ヨリ下黒駒村ヲ經テ大野寺村東方高地ニ互リ陣地ヲ占領シテ敵ヲ拒止シ機ヲ見テ攻勢ニ轉セントス

步兵第一聯隊ノ二中隊ハ大藏寺山ヨリ石和西端ニ互ル線ヲ步兵第二聯隊ハ東高橋及東油川ノ各西端ヲ占領シテ陣地占領ヲ掩護シ又步兵第三聯隊第一大隊

(歩兵第二聯隊ノ機關銃一小隊ヲ屬ス)ハ柏尾附近ヲ堅固ニ占領シ甲州街道ヲ掩護スル筈

三、歩兵第一聯隊第一大隊長ハ部下大隊、同第二聯隊ノ二中隊及野砲兵第三中隊ヲ指揮シ字坪井附近ヨリ成田ヲ經テ小山城趾ニ互ル線ニ前進陣地ヲ占領シ敵ヲ欺騙シタル後適時下黒駒ニ向ヒ退却スヘシ

退却後歩兵第一大隊ハ旅團豫備トナリ殘餘ハ原所屬ニ復歸スヘシ

四、歩兵第一聯隊第一大隊及第三大隊ノ二中隊欠ハ右翼隊トナリ鎌倉街道北方水流ノ線以北ノ地區ヲ射撃シ得ル如ク字石和村西南方ヨリ字土塚附近ヲ經テ字市ノ藏ニ至ル間ヲ堅固ニ占領スヘシ

右翼御代咲村附近ハ縱深ニ配備スヘシ

工事間旅團豫備タル歩兵二中隊及工兵一小隊ヲ屬ス

五、歩兵第二聯隊機關銃一小隊欠ハ左翼隊トナリ鎌倉街道北方水流以南ノ地區ヲ射撃シ得ル如ク下黒駒村ヨリ大野寺村東方高地ニ至ル間ヲ堅固ニ占領スヘシ左翼大野寺村東方高地ハ縱深ニ配備スヘシ

工事間工兵一小隊ヲ屬ス

前進陣地ニ在ル歩兵二中隊ハ該陣地撤去後復歸スル筈

六、野砲兵第一大隊ハ兩翼據點ノ前方ヲ側防シ且其中間地區ヲ掃射シ得ル如ク字金澤附近、上黒駒若宮附近及其西南方附近ニ陣地ヲ占領スヘシ

前進陣地ニ在ル野砲兵中隊ハ該陣地撤去後復歸スル筈

工事間工兵一小隊ヲ屬ス

七、歩兵第一聯隊第一大隊、同第三大隊ノ二中隊及工兵第一中隊ハ旅團ノ豫備トス

上黒駒附近ニ位置スヘシ

工兵第一中隊ハ先ツ工事ヲ援助スルモノトス

八、衛生隊ハ上黒駒村役場附近ニ野戰病院ハ同上宿附近ニ開設スヘシ

九、大行李ハ先ツ龍澤附近ニ位置スヘシ

十、予ハ上黒駒北部三叉路附近ニ在リ午後六時命令受領者ヲ出スヘシ

陣地占領ノ詳細ニ關シテハ後刻參謀ヲシテ現地ニ就キ指示セシム
後刻上黒駒旅團司令部ト第一線諸隊トヲ電話ヲ以テ連絡スル筈

旅團長 少 將 某

傳達法 歩兵兩聯隊副官、砲兵大隊副官及工兵中隊長ヲ集メテ口達筆記セシメ大

行李、衛生隊及野戰病院ニハ筆記シタルモノヲ傳騎ヲシテ送達セシム又
電話隊ニハ別ニ命令ヲ下ス

柏尾守備隊及騎兵中隊ニ與フル命令

混成第一旅團命令

二月廿八日午後三時
於成田西端

一、前ニ同シ

二、旅團ハ今ヨリ主力ヲ以テ御代咲村附近ヨリ下黒駒ヲ經テ大藏寺村東方高地ニ
互リ陣地ヲ占領シテ敵ヲ拒止シ機ヲ見テ攻勢ニ轉セントス

歩兵一大隊ヲシテ大藏寺山ヨリ概ネ平等川ノ線ヲ占領シテ旅團ノ陣地占領ヲ
掩護セシメ且歩兵一大隊半及野砲兵一中隊ヲシテ字坪井ヨリ成田ヲ經テ小山
城趾ニ互ルノ線ニ前進陣地ヲ占領シテ敵ヲ欺驅セシムル筈

三、歩兵第三聯隊第一大隊ハ今ヨリ柏尾附近ヲ堅固ニ占領シテ甲州街道ヲ掩護シ
友軍ノ來著ヲ待ツヘシ

歩兵第二聯隊ノ機關銃一小隊及傳騎ニヲ屬ス

四、騎兵中隊ノ主力ハ歩兵第三聯隊第一大隊ノ右翼ヲ警戒シ且ツ爲シ得ル限り青

梅街道ヲ掩護スヘシ

五、予ハ北部上黒駒三又路附近ニ在リ旅團司令部ト柏尾間ニハ電話ヲ以テ連絡ス
ル如ク努ムル筈

旅團長 少將某

傳達法 筆記シタルモノヲ歩兵第三聯隊第一大隊ニハ副官ヲシテ又騎兵中隊ニ

ハ傳令下士ヲシテ傳達セシム

右翼隊ノ縱深配備ニ就キテ

數線配備ノ由來及其必要ニ就キテハ既ニ述ヘタル所ナレトモ元來散兵壕ヲ高地
上ニ於テ稜線ノ前方ニ設クルトキハ歩兵ノ爲良好ナル射界ヲ得且能ク前方ヲ展望
シ得ルモ敵ノ集中砲火ヲ蒙リ終ニ之ヲ維持シ得サルニ至ル之カ爲散兵壕ヲ高地
稜線ノ後方ニ設クルコトヲ立案セシト雖此ノ如キハ我ハ敵歩兵ニ徒ラニ前地ヲ
委スルノミナラス敵砲兵ハ其觀測者ヲ歩兵ト共ニ前進セシムルヲ以テ多クノ地
形ニ於テハ我カ陣地ヲ忽チ敵砲兵火ニ暴露スルニ至ルモノトス故ニ高地稜線ハ
前方及後方ニ散兵壕ヲ設クルヲ必要トシ尙展望及射擊效力上ヨリ絕對ニ保有ス

ルヲ必要トスル地點例ハ有利ニ側防ヲ行ヒ得ル地點或ハ小谷地ヲ維持シ得ル地點ノ如キハ之ヲ占領セサルヘカラス又若干ノ陣地ニシテ弱點ヲ形成スルノ觀ヲ呈スルモノハ其後方ニ小支撐點又ハ散兵壕ヲ設ケ以テ敵ノ突破ヲ拒止シ且其失ヒタル陣地ノ回復ヲ容易ニスルノ用ニ供スルノ必要ヲ生セリ此ノ如キ必要ハ歐洲戰ニ於テ幾多戰鬪ノ實驗ヲ經テ終ニ數多ノ小支撐點ヲ分布シタル一ノ網狀陣地帯ヲ生スルニ至レリ而シテ尙頑強ニ抵抗ヲ持續シ得攻勢ノ機會ヲ得ル爲此ノ如キ數陣地帯ヲ重疊スルニ至レリ是即チ歐洲戰ニ於ケル所謂數線陣地ニシテ我カ新歩操ニ於テモ其一部ヲ認メ居ルハ既ニ述ヘタル所ナリ(新操二ノ82,95)本狀況ニ於テハ此陣地帯内ノ編成ヲ旅團ノ右翼御代咲村附近ニ應用セントスルモノニシテ此網狀陣地ノ配備ハ多クハ三乃至四線ヨリ成リ其要領次ノ如シ

第一線ハ陣地帯ノ最前線ニシテ第二線ハ第一線ヲ支援シ又ハ第一線ノ全ク破壞セラレタル場合ノ抵抗ニ充ツヘキモノニシテ第一線ニ向テスル敵砲彈ノ散飛界外ニ於テ成ルヘク之ニ接近シテ構成ス而シテ地形ニ依ルモ其距離ハ通常百乃至二百米トス

第三線ハ即チ豫備散兵壕ニシテ第一線ノ後方大約一吉米内外ニ構成ス

陣地ノ各線ハ地形ニ應シ一中隊毎ニ集團セシメ正面及側面ニ火力ヲ及シ得ル如ク施設スルヲ要ス

又特ニ自己ノ火力ヲ以テ其陣地前ヲ側防シ得ルコト最モ緊要ナリ

陣地ノ内部ニ在リテハ正面及側面ニ對シ逆襲ヲ實行スルニ必要ナル設備ヲ缺クヘカラス

陣地ノ各線ハ總テ必要ナル強度ヲ具備セシムルヲ理想トス

各陣地ヲ縱横ニ連絡スル爲成ルヘク地形ヲ利用シテ安全ナル交通壕ヲ掘開ス陣地ノ各線ハ通常散兵壕ノ一線ヨリ成ルモ近ク其後方ニ並行シテ交通壕若ハ掩壕ヲ設クルヲ可トスルコトアリ又地形上散兵壕ヲ重疊スルヲ有利トスルコトアリ

而シテ之ニ兵力ヲ配備スルニハ第一線歩兵中隊ハ敵兵未タ近迫セサル間ハ其一部ヲ第一線陣地ニ配備シ以テ主力ハ第二線ニ位置ス第一線大隊ノ豫備ハ通常第三線ニ位置ス

以上述ヘタル所ニ依レハ何等議論ノ餘地ナキカ如シト雖其防禦戰鬪法ニ就キテ二様ノ見解ヲ生ス從ヒテ數線陣地ノ配備ニ關スルモノトス即チ左ノ如シ

甲論者ハ此三線ハ實ニ一ノ網狀陣地帯ニシテ防者ノ一線陣地ト看做スヘキモノナリ此地帯全幅ニ互リテ戦闘ヲ行ヒ逐次ノ抵抗ニアラストナス然レトモ同地帯ニ兵力ヲ分散スルトキハ其實施決シテ容易ナラサルヲ以テ必スシモ堅固ト謂フ能ハサルヘシ之ニ反シ乙論者ハ第一線陣地ヲ防禦主線トナスモノニシテ第一線中隊ハ第一線陣地ヲ維持スルヲ以テ主眼トス從ヒテ援隊ハ戰鬥ノ初期ニ在リテハ第二線陣地ニ配置スルモ戰況ノ進捗ニ伴ヒ該陣地ノ警備兵ヲ除クノ外舉テ第一線ニ注加セラルルモノトス然レトモ第一線陣地ハ敵砲火ノ集中ニ依リ物質上全ク占據シ得サルニ至ルコトアリ此場合ニ於テハ援隊ハ初メヨリ第二線陣地ヲ占領スルノ已ムナキニ至ルモノトス又大隊ニ於テモ同様ニシテ其正面内ノ第一線ヲ維持スルニ努ムルモ第一線、第二線砲火ノ爲占據シ得サル如ク破壊セラルルニ至レハ豫備隊ハ初メヨリ第三線陣地ヲ占領スルノ已ムナキニ至ルコトアリトナシ第二、第三線ヲ全ク豫備陣地トナサントスルモノナリ此ノ如キハ實行上支障ナカランモ陣地ノ縱深ヲ利用シテ果シテ能ク持久ノ目的ヲ達シ得ルヤ疑問ニシテ又其主目的ニ合セサルヤノ感アリ

是ニ於テカ目下尙研究中ニ屬シ一定ノ論決ヲ與フルハ過早ナリト雖機關銃ヲ主

體トスル編成ニ在リテハ甲論ヲ適當トナスヘシ然ルニ本狀況ニ於テハ機關銃モ至テ少ク又敵ノ砲擊程度ハ歐洲戰ノ比ニアラス且持久ヲ要スヘキ時機モ亦比較的短小ナルヲ以テ單ニ三線配備ニ依リ乙論者ノ趣旨ノ如ク實施スルモ亦能ク其目的ヲ達スルヲ得ヘシ

是ニ於テ御代咲村附近ハ次ノ如ク配備スルヲ可トス

但第七中隊ノ正面ハ一ノ突角ヲ形成スヘシト雖我カ砲火ニ依リ側防シ得ヘキヲ以テ此正面ノ兵力ヲ寡少ニセリ

又機關銃ハ防禦ニハ恰好ニシテ歐洲戰ニ於テ其用法大ニ擴張セラレタリト雖機關銃ノ正面火ハ十分其威力ヲ發揚スル能ハス之ヲ側防的ニ使用シ側射斜射ヲ行フヲ以テ原則トスルハ各國一致スル所ニシテ正面火ハ之ヲ輕機關銃ニ讓ルニ至レリ但特ニ敵眼ニ遮蔽スル如ク巧ニ他物ヲ利用シ或ハ遮蔽物ヲ添加シテ之ヲ構築スルヲ要ス

狀 況

一、此日旅團ハ日没前ニハ豫定ノ如ク前進陣地ヲ占領シ終リ爾

餘ノ諸隊ハ下黒駒村附近ノ陣地構成中ニシテ敵ハ日没頃我カ陣地占領掩護隊ヲ壓迫シ夜ニ入りテ笛吹川ノ線ニ達シ盛ニ我カ前進陣地ヲ偵察中ナリ

二、旅團長ハ午後六時宿營命令ヲ下シ諸隊ニ現陣地ヲ守備シテ夜ヲ徹シ且工事ノ續行ヲ命セリ夜ニ入りテ間モナク降雪止ミ快晴トナリ銀星天ニ滿チ且雪雲ト相映シテ暗夜尙暗カラス此夜ニ於ケル彼我ノ動作ヲ甚タ容易ナラシメタリ爲ニ我カ工事ハ各所共ニ著シク進捗シ明朝晷完成ノ豫定ナリ

三、翌三月一日拂曉頃敵ハ終ニ我カ前進陣地ニ向ヒ攻撃ヲ開始セリ是ニ於テ前進陣地ニ在リシ諸隊ハ殆ト一齊ニ本陣地ニ向ヒ退却ス敵ハ間モナク我カ前進陣地ニ達シタルモ爾後字坪井宇成田、字二ノ宮ノ各東端ノ線ヲ占領シ又一部隊ヲ以テ小山城趾ヲ占領シテ前進セス唯坪井、成田、小山城趾ノ三方向

ヨリ我カ本陣地ニ向ヒ砲撃ヲ開始シ陣地ヲ偵察スルニ似タリ時ニ午前七時三十分トス敵ノ砲兵陣地ハ能ク遮蔽シアリテ不明ナルモ坪井方向ノモノハ十門以上ニシテ野砲ナルモノ、如ク又成田及小山城趾附近ノモノハ共ニ十門以下ナルモ成田附近ノモノノミハ重砲ナルモノ、如ク其威力大ナリ

四、此時昨廿八日夜八王子ヨリ發シタル左ノ要旨ノ第一師團長ノ通報ヲ受領ス

一、貴旅團ノ下黒駒附近ノ陣地ニ退却スルノ報告ハ既ニ受領セリ

二、速ニ貴旅團ヲ増援スル爲野砲兵第二大隊及野戰重砲兵第一大隊ハ既ニ先行セシメタリ其野砲兵大隊ハ明三月一日午前十一時頃甲州街道上大月附近ニ又其重砲兵大隊ハ同

日夕刻前大月附近ニ到着スル筈

貴官ハ右砲兵ヲ適宜區處スルコトヲ得

三、師團ノ殘餘ハ本夜遅ク八王子附近ニ宿營セリ明三月一日
青梅、甲州兩街道ヲ經テ急行スル筈

是ヨリ先キ旅團長ハ偵察報告ニ依リ大月—上吉田—御坂峠—
黑駒道ハ野砲ヲ通スルコトヲ知ル

(問)旅團長ハ如何ニセントスルヤ

(答)旅團長ノ處置

一、野砲兵第二大隊ノ一中隊ヲ柏尾附近ニ急行シテ歩兵第三聯隊第一大隊長ノ
指揮下ニ入ラシム

二、野砲兵第二大隊(一中隊欠)ヲシテ御坂峠ヲ經テ上黑駒村ニ向ヒ急行セシム

三、重砲兵大隊ヲ柏尾ニ向ヒ前進シ爲シ得ル限り戰鬥ニ參與スル如クセシム

狀 況

一、敵ハ殆ト終日前進セスシテ猛烈ナル砲撃ヲ以テ我カ陣地ノ
兩翼據點ノ破壊ヲ企圖シ爲ニ夕刻頃ニハ共ニ第一、第二線共
ニ大ニ破壊セラレ日没ト共ニ應急修理ヲ爲スニアラサレハ
殆ト保守困難ナルニ至レリ

是ヨリ先キ野砲兵第四中隊ハ既ニ戰場ニ到着シテ歩兵第三
聯隊第一大隊長ノ指揮下ニ入り野砲兵第二大隊ノ主力モ亦
此頃上黑駒附近ニ到着シテ兩翼據點前ヲ射撃シ得ル如ク設
備セリ

二、此日夜ニ入ルヤ敵ハ一齊ニ前進ヲ開始シ午後八時頃ニハ敵
ノ第一線ハ字地藏堂附近ヨリ字末木、字國分、金川原及金生村
ヲ經テ北部大野寺村ノ線ニ達シ且甲州街道方面祝村、字下岩
崎ニモ敵ノ歩兵現出シ敵ハ小部隊ノ夜襲ヲ以テ絶エス我カ
工事ノ修理ヲ妨害スルノミナラス其破壊ノ程度ヲ偵察セン

トスルモノ、如シ

三、此夜旅團長ハ師團長ノ通報ニ依リ師團ノ殘餘ハ步兵第四聯隊ヲ以テ青梅街道ヲ其他ノ諸隊ヲ以テ甲州街道ヲ前進シ明二日午前七時各其先頭ヲ以テ初狩(甲州街道上大月西方約一里)及藤尾(青梅街道上丹波山西方約二里)附近ニ達スル筈ナルヲ知レリ

四、三月二日快晴ニシテ天明ト共ニ我カ兩翼ニ向テ敵ハ盛ニ攻撃前進ヲ開始シ又其砲兵ハ字竹原田附近(約十門)、金川原附近(重砲約八門)及字蕎麥塚附近(野砲約八門)ヨリ砲撃シ殊ニ右翼據點ニ向ヒ射撃ヲ集中セリ之ニ對シ我カ砲兵モ亦對戰シタルモ敵步兵ハ盛ニ前進シ今ヤ第一線散兵壕ニ突入セントスルノ氣勢ヲ示セリ時ニ午前七時トス敵ノ兵力分配ハ右翼方面ニ步兵四大隊、中央ニ一、二大隊、左翼方面ニ二、三大隊ナルモ

ノ、如シ

問題

午前七時ニ於ケル旅團長ノ決心(即題)

決心

變化ナシ

處置

豫備タル步兵第三大隊ニ中隊ヲ右翼隊長ニ増加ス

狀況

午前八時頃終ニ右翼隊ノ第一線ハ敵ニ奪取セラレ今ヤ第二線ニ於テ極力抵抗中ニシテ我カ左翼ハ辛ウシテ第一線ヲ保守シ

ツ、アリ然レトモ此頃我カ野砲兵ハ大善寺(甲州街道上字柏尾東方約五百米)附近ヨリ盛ニ御代咲村附近ノ敵ノ主力ヲ側射シタル爲遠距離ナルモ我カ志氣上ニ及ス効驗頗ル大ニシテ敵ノ第一線ハ終ニ工事ヲ始メタリ又此頃敵ノ歩兵一大隊ハ我カ柏尾守備隊ニ向ヒ佯攻ヲ行フモ近ク前進セス反テ其砲兵ハ優勢ナル我カ砲兵ヨリ壓倒セラレ我カ旅團ハ漸次好況ニ向ヒツ、アリ

此時旅團長ハ飛行機中隊ヨリ左ノ要旨ノ報告ヲ受領ス

歩兵少クモ三大隊、砲十數門ノ一縱隊ハ今朝午前六時ニ稍過キ駿州往還上青柳附近ヲ急行中ナリ

問 題

午前八時ニ於ケル旅團長ノ決心(即題)

決 心

旅團ハ我カ友軍ノ來著ニ待テ攻勢ニ轉セントス

理 由

敵ハ今ヤ戰術的ニ於テモ不利ニシテ我カ攻勢移轉ノ好機ナリ然レトモ敵ハ戰畧上ニ於テモ亦過失ヲ冒シ我カ術中ニ陥レルモノニシテ友軍ノ來著ト共ニ之ヲ實現スルノ狀況トナレリ縱ヒ敵ノ増援隊ニシテ適時來著スルモ此戰畧的ノ不利ハ之ヲ回復スルコト能ハス況ンヤ増援隊ノ來著モ亦我ニ有利ナルニ於テオヤ彼獨國「ヒンデンブルグ」將軍ノ「タレネンベルヒ」(Tannenberg)附近ノ會戰ニ於テ未曾有ノ奇勝ヲ博シタルモ亦露軍ノ兩翼包圍ヲ實施スルニ最モ便ナル地點迄之ヲ誘致シ中央正面ニ於テ之ヲ拒正シ兩側ヲ迂回包圍セシメ其完成ヲ待チテ全線攻撃ニ轉セリ之ニ反シ露軍ハ全ク獨軍國境守備兵ノ退却ニ誘致セラレテ輕舉暴進シ遂ニ獨軍ノ術中ニ陥リタルナリ今ヤ我カ前面ノ敵モ亦恰モ戰畧上ノ過失ヲ冒シタリ尙

若干時間ノ後ニハ彼ハ我カ目前ニ於テ天罰ヲ受クルニ會セントス故ニ我ハ今暫ク隱忍持重シ増援隊ノ來著ヲ待チテ攻勢ニ轉シ勝利ノ萬全ナルニ加カサルナリ

攻勢移轉ニ就キテ

軍隊防勢ニ在ルト靜止ノ姿勢ニ在ルト又ハ退却中ニ在ルトヲ問ハス攻勢以外ノ姿勢ニ在ル軍隊再ヒ攻勢ニ轉スルヲ攻勢移轉ト云フ然レトモ戰術上普通攻勢移轉ト稱スルハ決戰ノ目的ヲ以テ陣地ヲ占領スル軍隊機ヲ見テ攻勢ニ轉スルヲ謂フ而シテ逆襲トハ單ニ敵ノ攻撃ニ對スル防者ノ反擊ニシテ敵ノ近接攻撃ヲ待チ我カ火力ノ效果ヲ認メタルトキ進ンテ攻勢ニ轉スルモノナリ故ニ逆襲モ亦攻勢移轉ノ範圍ニ屬ス

攻勢移轉ヲ行フヘキ適切ナル場合ヲ舉クレハ左ノ如シ

- 一、守者ノ火力ニ依リ攻者ノ攻撃頓挫シタルトキ(逆襲)步操二ノ71、新步操二ノ91¹、
- 二、準備陣ニ在ル軍隊敵兵ノ展開ニ先タチ又ハ分進シタルニ乘シ主力ヲ以テ攻撃スルモノ

三、其他敵ノ過失ヲ發見シタルトキ(步操二ノ71新步操二ノ91¹)

四、對峙シアル敵兵退却セントスル場合ニ於テ之ヲ抑留スルヲ必要トスルトキ

五、防勢ニ在ル軍隊増援隊ヲ得テ敵ヨリ優勢トナリタルトキ(豫定ノ計畫)新步操二ノ91¹)

要スルニ機ヲ見テ攻勢ニ轉スルモノニシテ指揮官適時好機ヲ看破シ攻勢ニ轉スヘキナリ然ルニ好機ニ攻勢ニ轉スルハ古來困難トスル所ニシテ百戰ノ名將ニシテ始メテ能ク之ヲ看破スルヲ得ン

本狀況ニ於テ旅團若午前八時ニ攻勢ニ轉セハ是所謂第一ノ場合ナリ又旅團力實行セントシタル如ク我カ増援隊ノ來著ヲ待チテ始メテ攻勢ニ轉セントスルハ第三及第五ノ場合ヲ實現シ以テ勝利ヲ確實ニセントスルモノナリ然レトモ此間敵兵若自己ニ不利ナルヲ知リ將ニ退却セントスルニ方リテハ勿論旅團ハ之ヲ抑留スル爲攻勢ニ轉セサルヘカラス是即チ第四ノ場合ナリト謂フヘシ以上述フルカ如シト雖這次ノ歐洲戰ニ鑑ミルトキハ我カ射擊效果ノ觀察竝敵ニ對シ獲得シ得ヘキ機會ノ發見容易ナル等ノ關係ヨリ攻勢移轉ノ好機ハ後方ノ高級指揮官ヨリモ第一線部隊長ノ方速ニ且適切ニ判斷シ得ルコト多キヲ以テ新步操ニ於テハ特

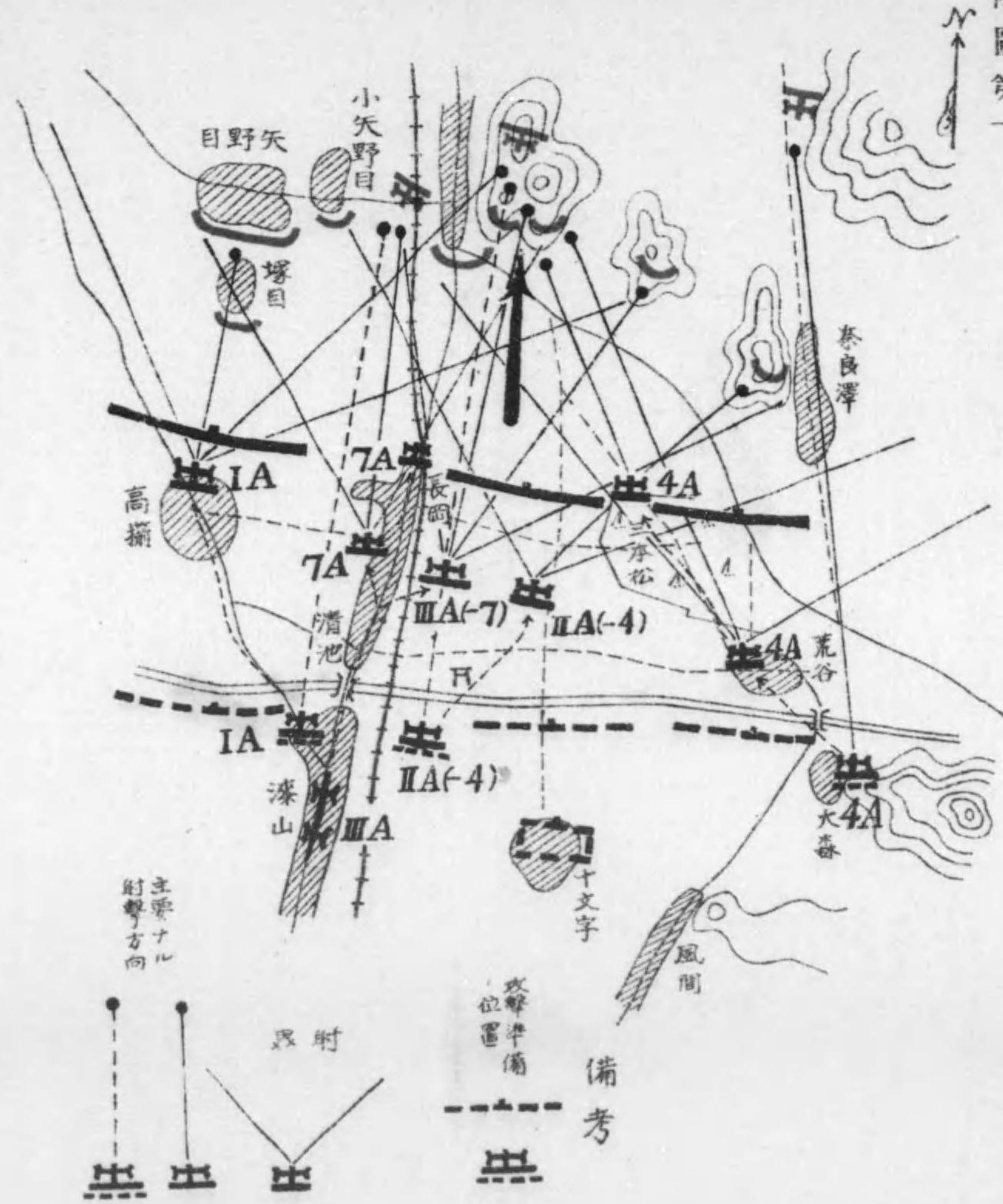
ニ其獨斷ヲ許サレタルニ注意スルヲ要ス(新步操二ノ91)

初級戰術講授錄卷上終



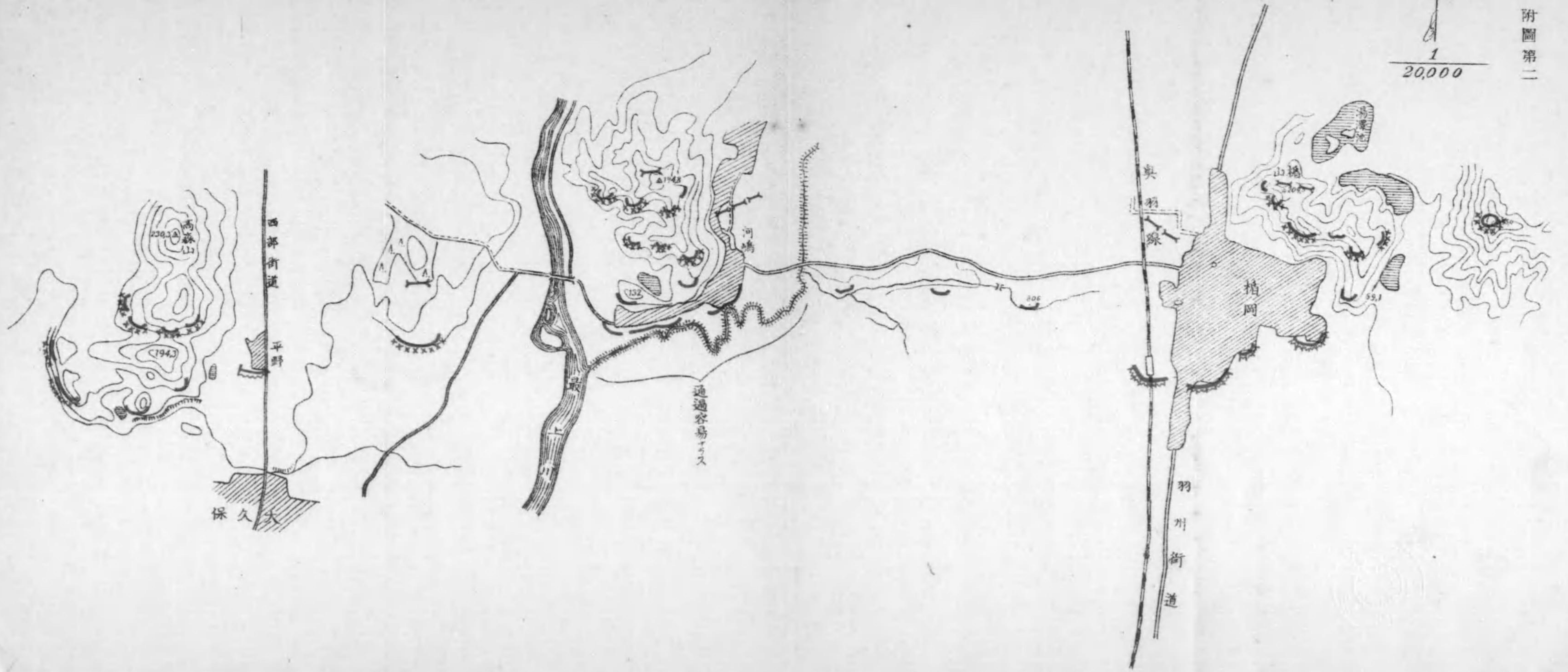
砲兵指揮官ノ砲兵使用ニ關スル計畫圖

附圖第一





圖要地陣敵ルケ於二頃午正日七十月二十

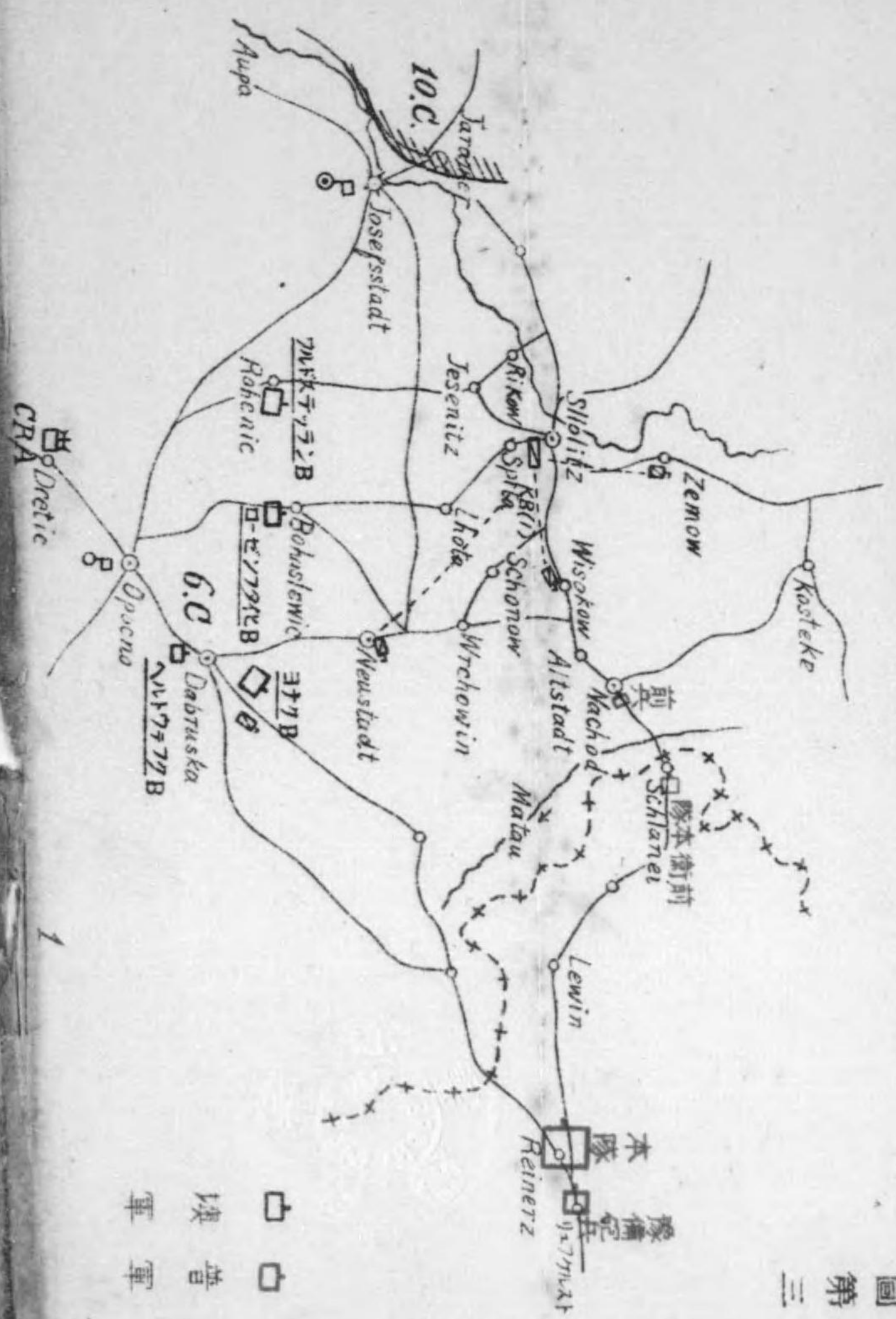


附圖第二

1
20,000

Nachod 附近戰鬪前夜ニ於ケル普埃軍ノ位置圖
 千八百六十六年六月二十六日

附圖第三

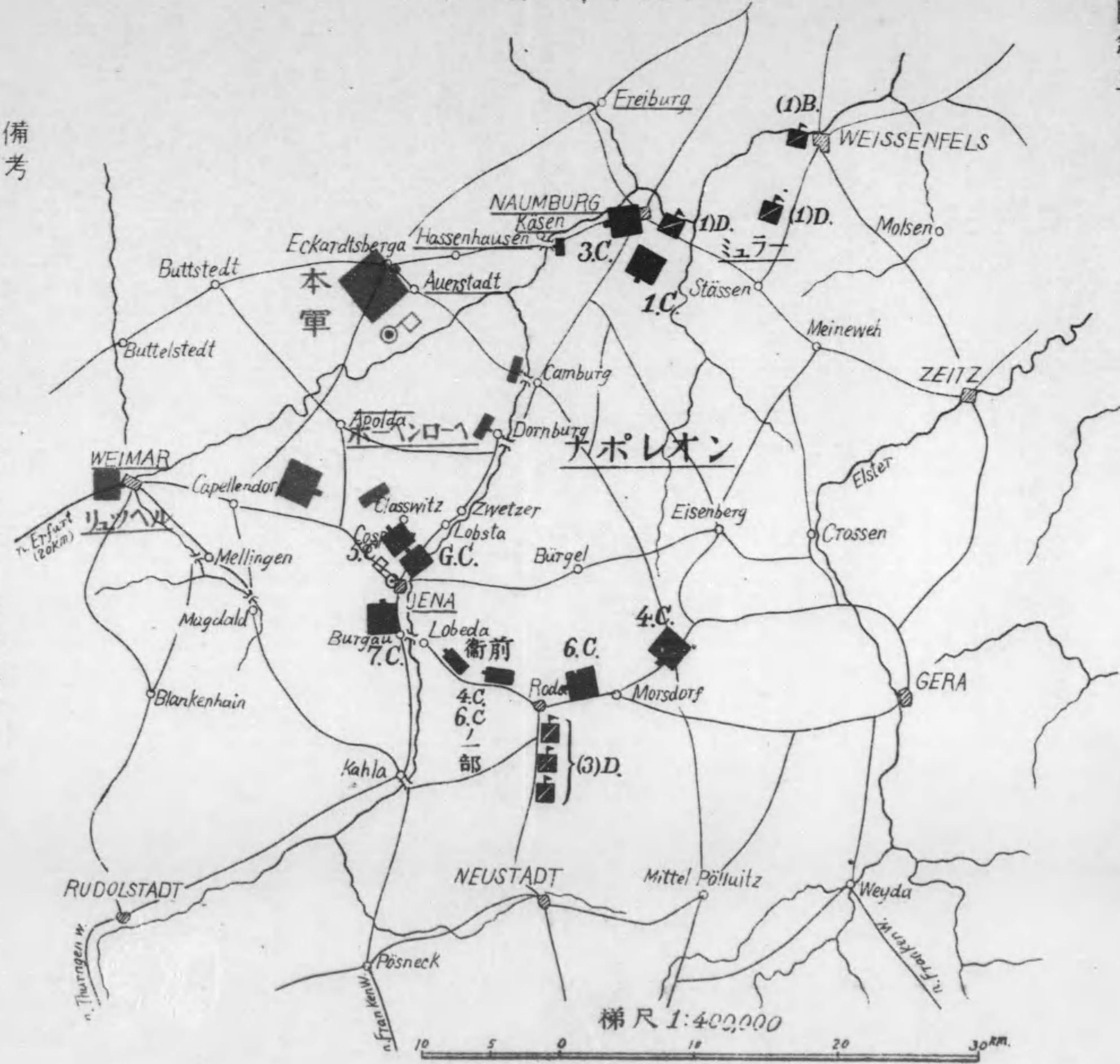


Jena及Auerstedt 會戰前夜ニ於ケル普佛兩軍之位置圖

千八百六年十月十三日

附圖第五

備考
普本軍ノ一師團ハ西南方ヨリ「エルフルト」ニ向ヒ行進中

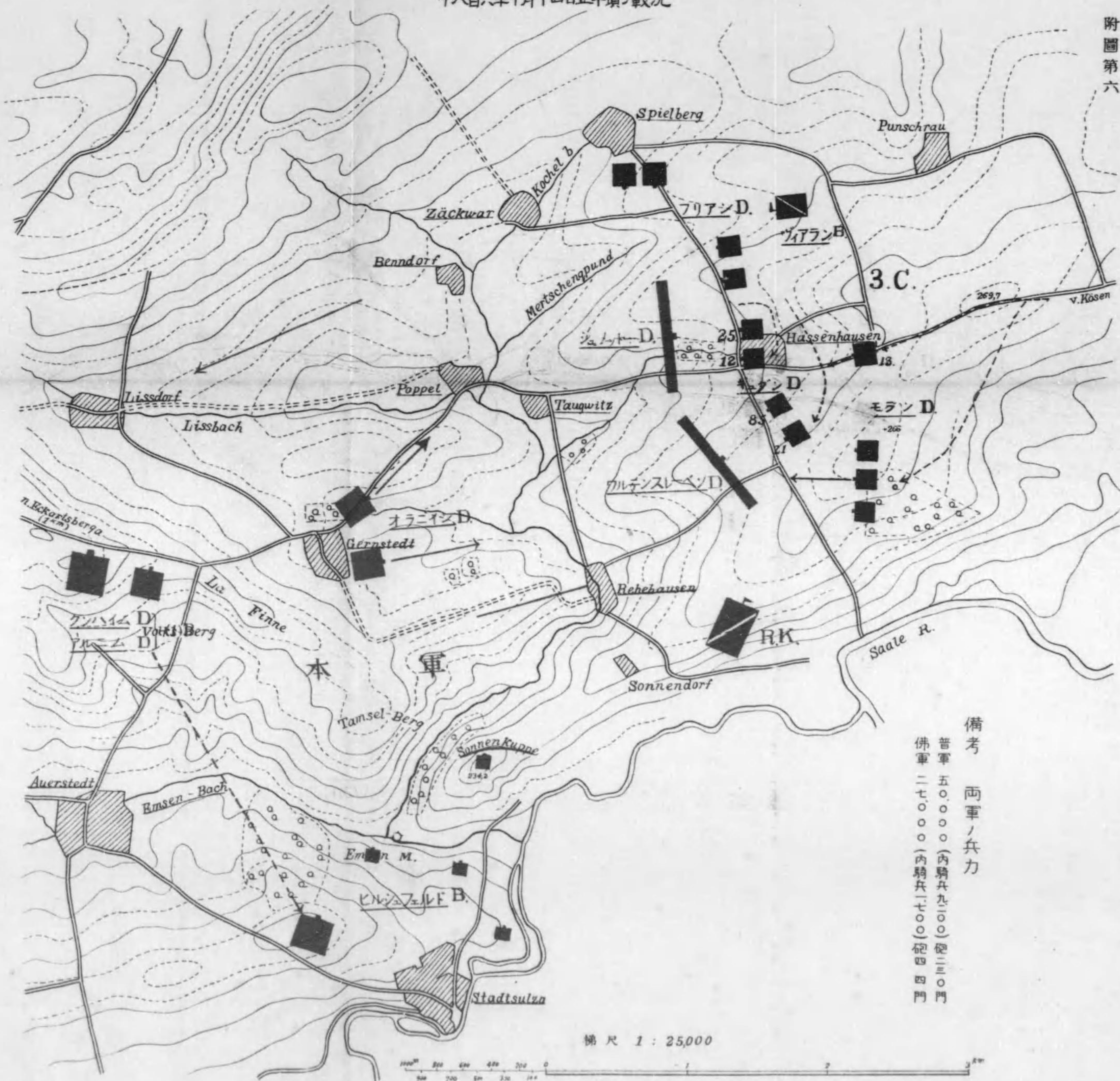


梯尺 1:400,000

Auerstedt 附近普佛兩軍之會戰要圖

千八百六年十月十四日正午頃ノ戰況

附圖第六



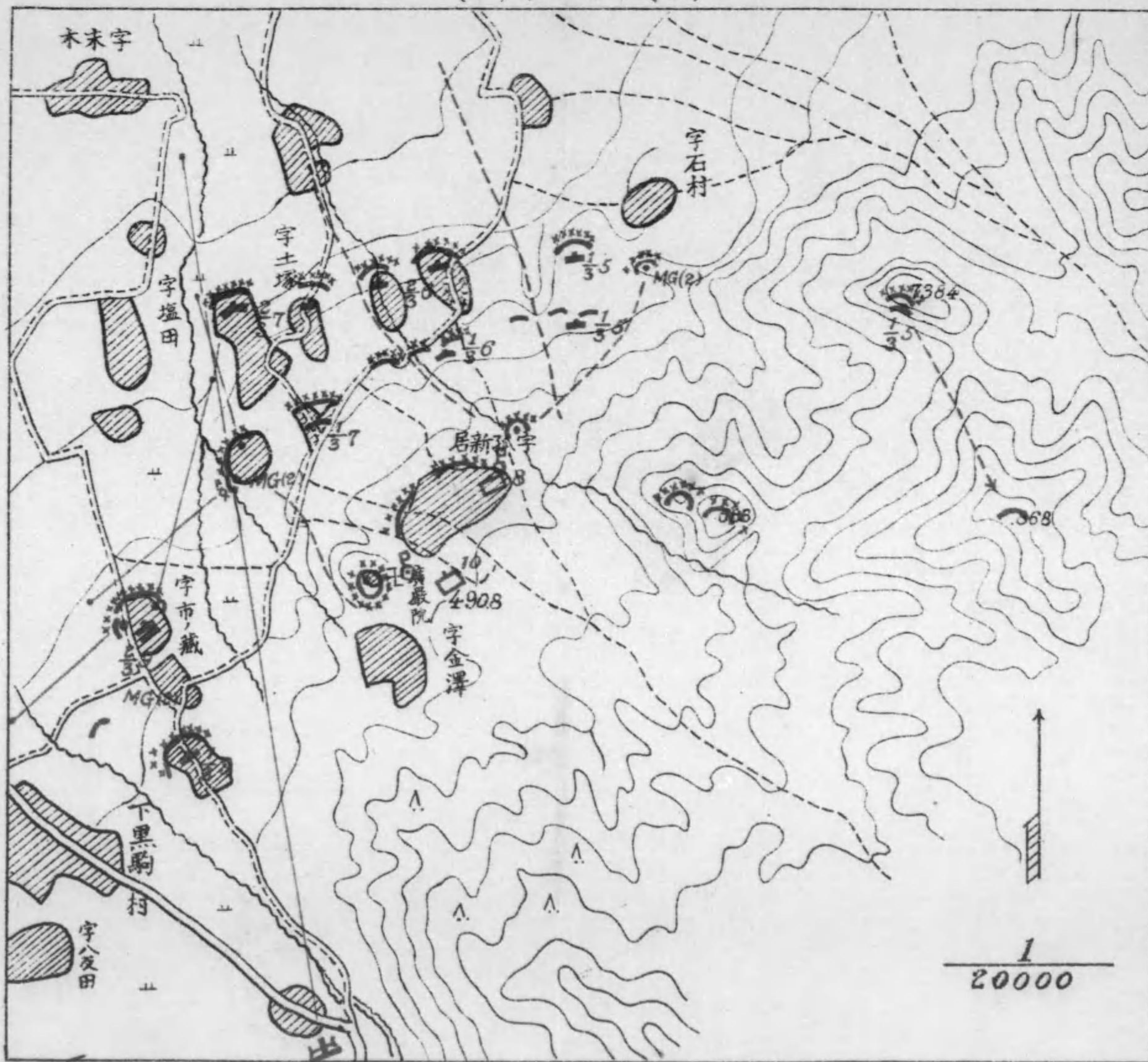
備考 兩軍ノ兵力
 普軍 五〇〇〇〇 (内騎兵九〇〇) 砲三〇門
 佛軍 二七〇〇〇 (内騎兵一七〇〇) 砲四四門

標尺 1 : 25,000

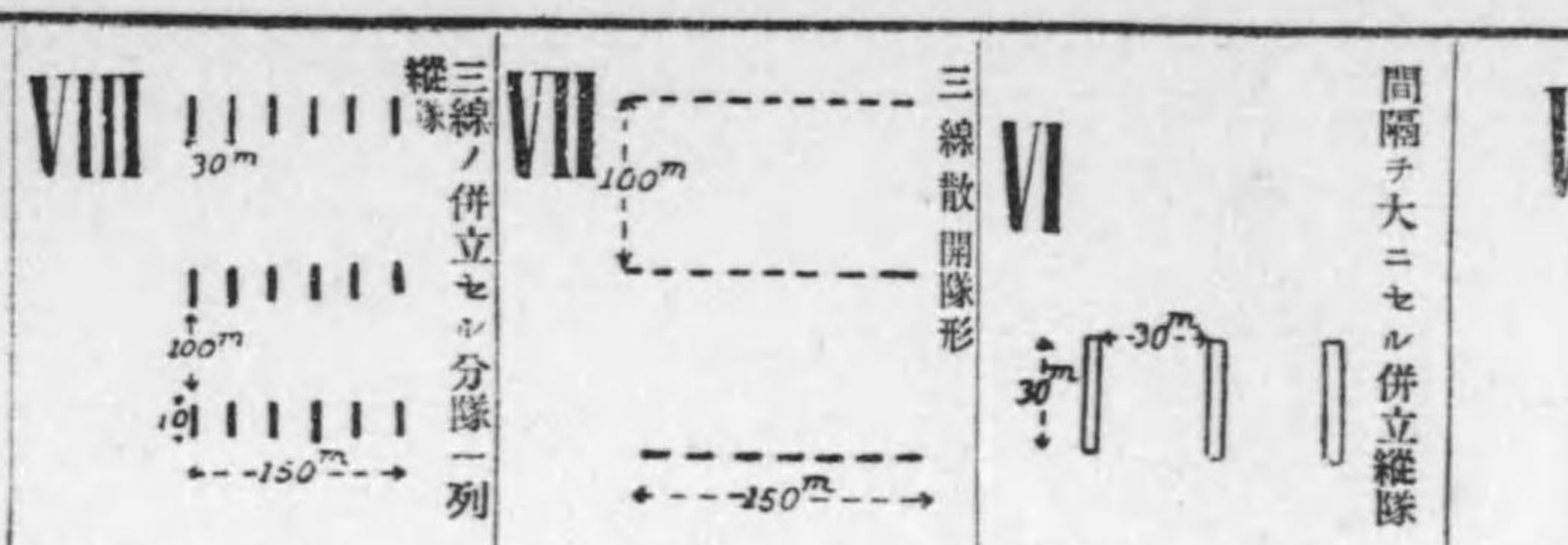


右翼隊ノ縱深配備要圖

(三月一日於レケ)



附圖第七



近附米百五千

46			56			36			伏
伏	膝	立	伏	膝	立	伏	膝	立	伏
六	一三	二四	九	三九	三二	一	一	二	二
三	六	六	三	五	七	一	三	三	三
〇	〇	一	〇	一	〇	〇	〇	〇	二
五	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	二

命中百分ノ少ナリシハ射向稍、右ニ偏シ向テ左ノ小隊ニ對スル効力極メテ少カリシニ依ル之ヲ以テ本隊形ハ砲兵トシテハ方向修正ノ困難ナル爲射彈ヲ經濟的ニ使用シ得サルヲ知ルヘシ故ニ適當ニ運用セハ此距離附近ニ於テハ有利ナルコト多シト認ム

此隊形ハ砲兵ヨリ捉ヘラレ易キモ敵ヲシテ多數ノ射彈ヲ使用セシム

此隊形ハVIIト大同小異ナリ
圖中ノ單柱一箇(I)ハ一分隊ヲ示ス

此シテ殆ト大ニシテ其距離チ大ニセル價値ヲ發揮シ得サルシ(之ハ他ノ原因ニ依リト雖)ニ比スレバ其間隔チ大ニセル利益ハ十分ニ顯ハレアリト云ハサルヘカラス又指揮上ヨリスルモ其ノ方Vヨリ便ナリ

三、此距離附近ニ於テハ最早中隊縦隊ハ損害莫大ニシテ適當ナラス(小隊ノ横隊モ同様ナリ)之ニ反シテ大間隔ノ併立縦隊ハ有利ニ應用セラル、コトヲ知ル

四、以下ノ射撃ハ凡テ射撃法ニ則リテ數距離射撃ヲ爲セリ從ヒテIVトIトノ成績チ比較スレハ一彈ノ効力ニ於テ差アルヲ知ルヘシ



近附米百九千

41			62			32			36		
伏	膝	立	仇	膝	立	伏	膝	立	伏	膝	立
八	二七	三七	一六	五〇	五四	七	二六	四三	六	二五	三五
二	五	六	四	七	七	三	六	七	二	六	六
〇	一	一	〇	一	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇
七	一	一	八	一	一	〇	〇	〇	七	一	一

此隊形ハ指揮不便ナルト射方向ニ對シ少シク斜交スレハ其目標正面頗ル大トナルノ不利アリ故ニ其効力ノ景況斯ノ如クIXト大差ナシトスレハ寧ろ指揮ニ便ナルIXヲ可トスヘシ

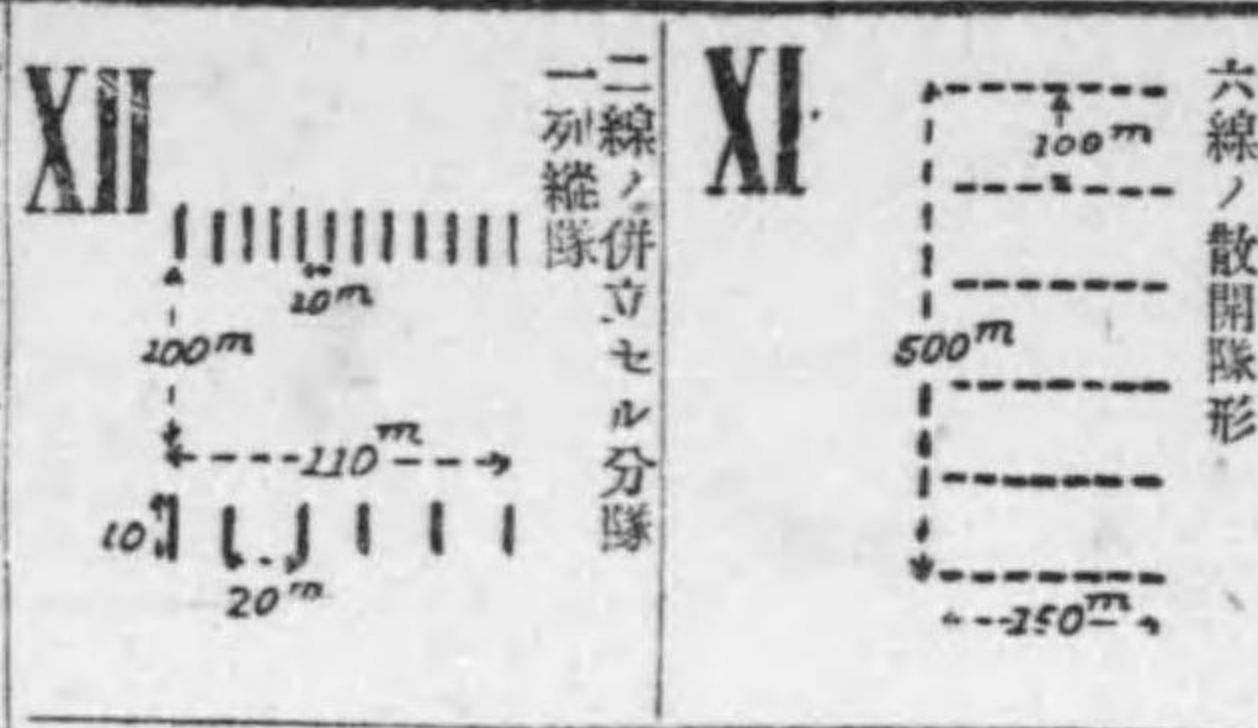
此隊形ハ損害ノ景況ヨリ論スレハ餘リ有利ナラス是其間隔過小ニシテ殆ト密集隊形ノ如キ景況ヲ呈セシ結果ナリ然レトモ比較的掌握シ易キト地形ニ適合シ易キト利アリ(VIII参照)

此隊形ノ特徴ハVIIニ等シク砲兵ヨリ捉ヘラレ易キモ敵ヲシテ多數ノ射彈ヲ使用セシムルニ在リ

一、六線ノ散開隊形(XI)ハ砲火ノ危害ヲ避ケル點ニ於テハ最モ有利ナリ

二、併立セル半小隊一列縦隊(X)ニ線ノ併立セル分隊一列縦隊(XII)ハ餘リ適當ナル隊形ニアラス

三、此距離附近マテハ距離間隔チ大ニセル併立縦隊(IX)位ノ程度ノ密集部隊ハ尙存在ヲ許スコトヲ知ル



近附米百四千

64			68			44		
伏	膝	立	伏	膝	立	伏	膝	立
一七	一六	一〇	二七	二七	二七	一七	一六	一〇
二	一	一	二	二	二	二	一	一
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
六	〇	〇	六	〇	〇	六	〇	〇

此隊形ハ損害ノ景況ヨリ論スレハ餘リ有利ナラス是其間隔過小ニシテ殆ト密集隊形ノ如キ景況ヲ呈セシ結果ナリ然レトモ比較的掌握シ易キト地形ニ適合シ易キト利アリ(VIII参照)

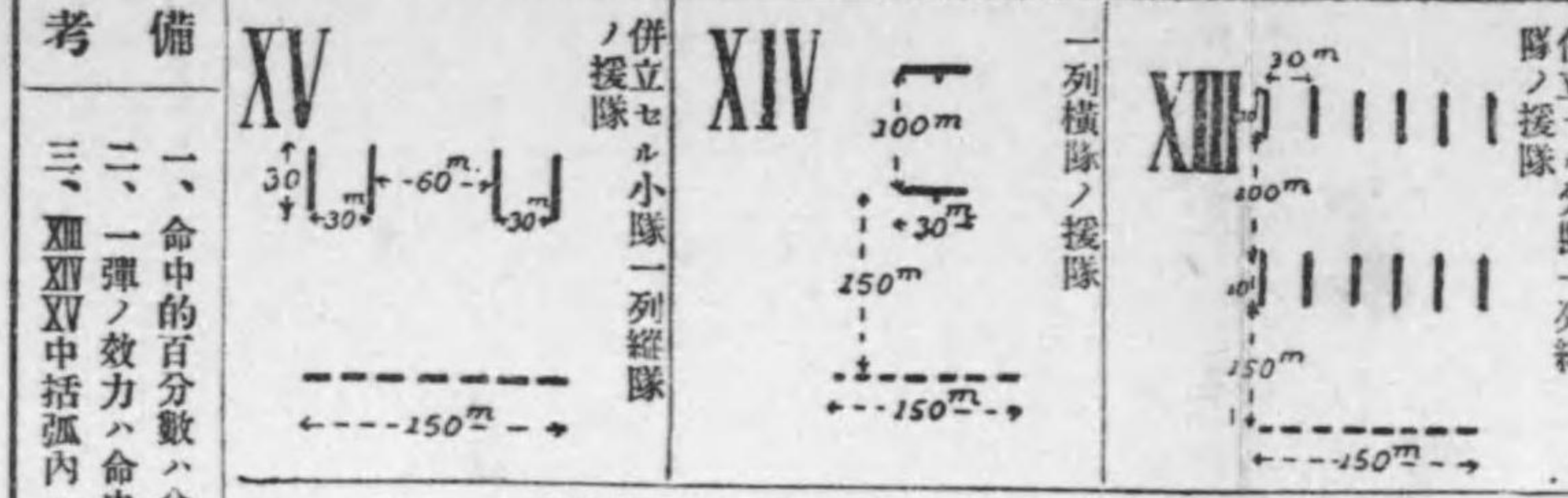
此隊形ハ指揮不便ナルト射方向ニ對シ少シク斜交スレハ其目標正面頗ル大トナルノ不利アリ故ニ其効力ノ景況斯ノ如クIXト大差ナシトスレハ寧ろ指揮ニ便ナルIXヲ可トスヘシ

此隊形ハ損害ノ景況ヨリ論スレハ餘リ有利ナラス是其間隔過小ニシテ殆ト密集隊形ノ如キ景況ヲ呈セシ結果ナリ然レトモ比較的掌握シ易キト地形ニ適合シ易キト利アリ(VIII参照)

一、併立セル分隊一列縦隊ノ損害最少ナリ故ニ砲兵ニ對シテハ援隊ハ此隊形力又ハ散開チ有利トスルコトアルヘシ

二、此距離ニ於テハ密集隊形ヲ保持スルコト稍、困難ナルヲ知ルヘシ

三、此距離附近ニ於ケル損害ハ他ノ距離ニ於ケルト概シテ同一ナル密度ノ射撃ヲ爲シタルニ關セテ特ニ大ナルハ注意ヲ要ス



備考

一、命中ノ百分數ハ命中ノ數ト總ノ數(歩兵一中隊ノ戰時人員ニ同シ)トノ百分比ナリ

二、一彈ノ効力ハ命中ノ百分數チ効力射彈數ニテ除シタルモノナリ

三、XIV XV 中括弧内ハ援隊ニ對スルモノ括弧外ハ散兵線及援隊ノ全部ヲ包括セル成績ナリ

此隊形ハXII(併立セル分隊一列縦隊)ト比較スレハ大差アリ是主トシテ各縦隊ノ間隔チ大ニセル結果ナルカ如シ

故ニ間隔チ二十五米以上トスレハ此隊形ハ相應ニ有利ナルモノト認メ得ヘシ(VII参照)

實際ニ於テハ散兵線ノ後方ニ格段ノ著明ナル目標ヲナス爲一層敵ノ射彈ヲ惹クモノト認ム(III参照)

此隊形ハXII(併立セル分隊一列縦隊)ニ比スレハ損害大ナルモXIV(一列横隊)ニ比スレハ少シク可ナルカ如シ此三隊形ノ利害ヲ比較スル爲一彈ノ効力ニ依ルハ適當ナラス何トナレハXVノ如キハ他ニ比シテ深小ニシテ從ヒテ効力射彈數著シク少ナレハナリ故ニ此比較ハ寧ろ命中百分ニ依ルチ至當トス

大正十年二月三日印刷
大正十年二月六日發行

著作

陸軍大學校將校集會所

大村有隣

發行兼

上原好雄

印刷所

同勞舍

東京市麴町區下六番町十七番地

東京市麴町區下六番町十七番地

取扱所

合資會社 兵書出版社

振替口座東京二四二五五番
電話九段一〇二九番

319
425

終